高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 環境整備

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

東京科学大学大学院
具 芳明 先生

東京都

環境整備の基本

- 環境整備は整理整頓から始まります。物を減らし、適切に配置することによって、清掃や消毒を徹底し清潔な状態を維持することができます。
- 消毒を行う場合は、消毒薬を適切に選択・管理することに加え、消毒薬が必要な面にきちんと触れる必要があります。ポイントを押さえて理解しましょう。
- 日頃からきれいな（清潔な）ものと汚れた（汚染された）ものを明確にわけることが大切です。物品を少なくすることで清潔な物品が汚染される機会を減らすことができます。思わぬ形での感染の広がりを防ぐことができます。

整理整頓をしましょう

✕ 間違った事例

職員が使用するエリアが雑然としており、環境清掃を行う際に効果的に実施できていなかった。

○ 正しい事例

物を減らして整理整頓することで環境清掃をしやすくする。

整理整頓をしましょう

解説

多くの職員が触れる場所を中心に整理整頓に努め、清拭の妨げにならないように工夫しましょう。

消毒薬は清拭することが重要です

✕ 間違った事例

汚染箇所へ消毒薬の噴霧のみ行い、清拭していない。

○ 正しい事例

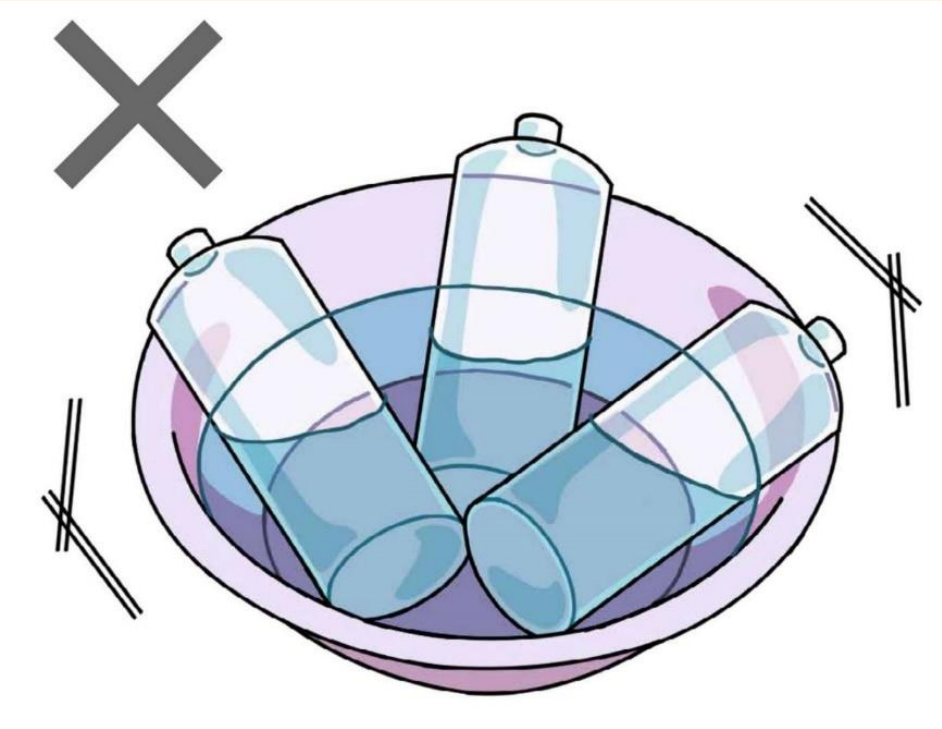
手すりやドアノブなどの汚染箇所を消毒するときは、消毒薬を染み込ませたクロスで清拭している。

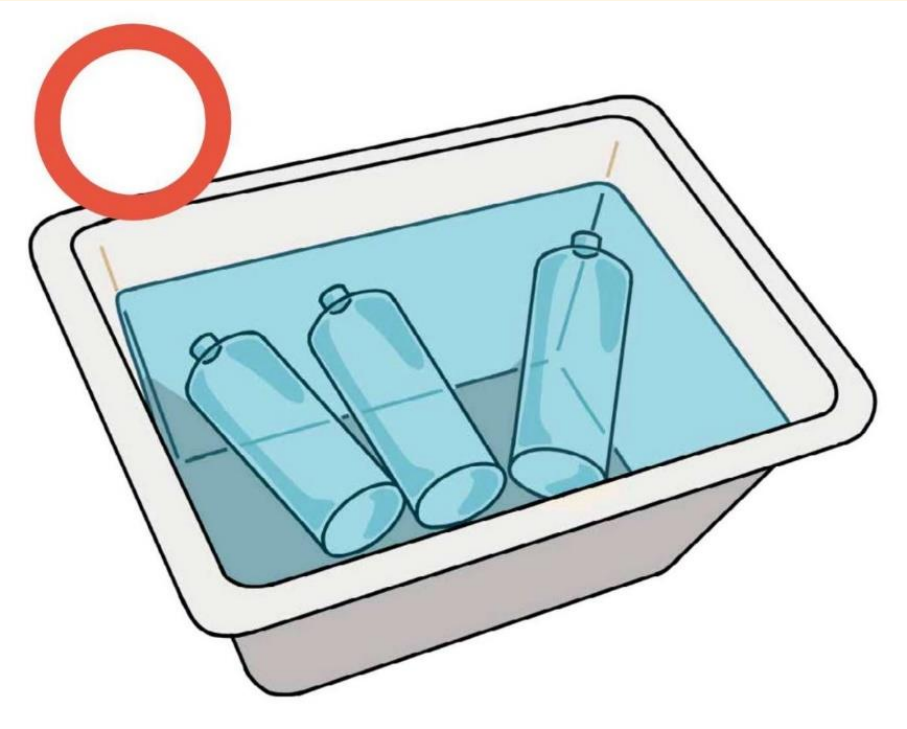
消毒薬は清拭することが重要です

解説

環境表面の消毒は、クロスで清拭することが重要です。スプレーボトルに入った消毒薬を使用するときは、クロスに噴霧したうえで、汚染箇所を拭き取りましょう。

浸漬消毒は全体を浸しましょう





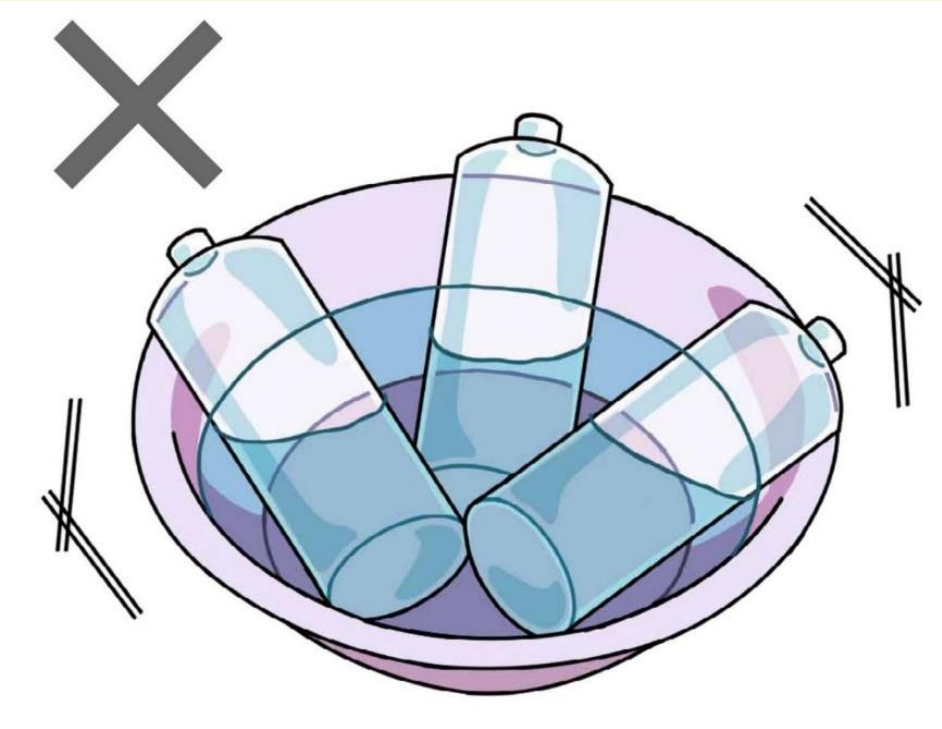
✕ 間違った事例

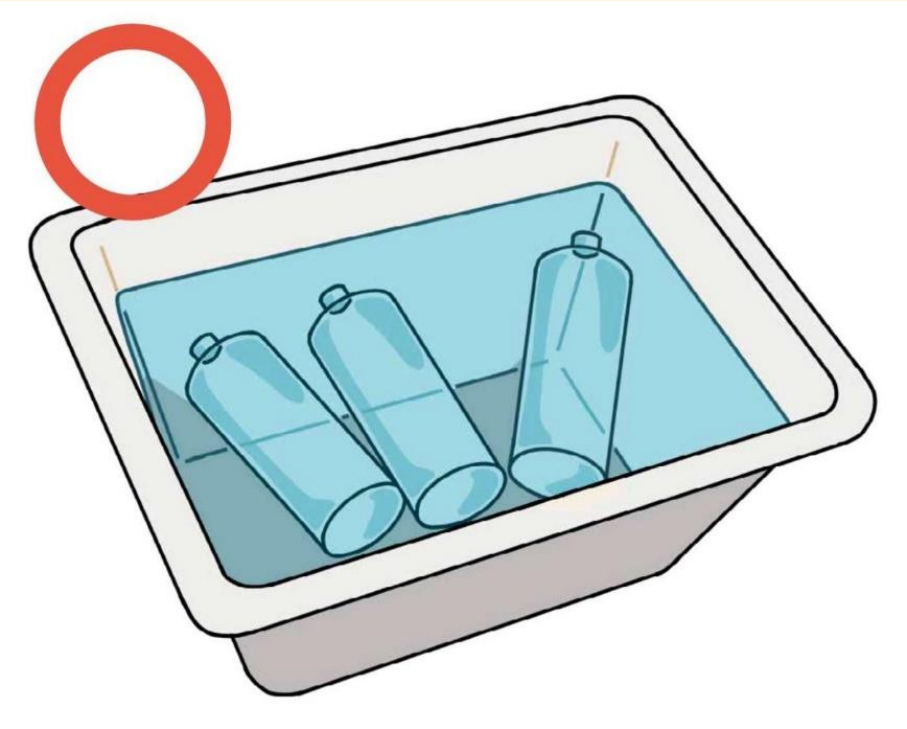
一部が消毒液から浮いている。

○ 正しい事例

全体が消毒液に浸かっている。

浸漬消毒は全体を浸しましょう





解説

浸漬消毒では、薬液と触れている面しか消毒されません。全体を浸漬できる大きな容器を使用するとともに、内腔に空気が残らないよう浸漬する、浮きあがらないよう落とし蓋や重しを使用するなどの工夫で、全体を消毒薬に漬ける必要があります。

希釈した次亜塩素酸ナトリウム溶液は作り置きせず、使用当日に作りましょう

✕ 間違った事例

次亜塩素酸ナトリウム溶液を希釈して作り置きし、消毒効果がなくなったものを使用している。

○ 正しい事例

使用の都度、次亜塩素酸ナトリウム溶液を希釈して作っている。

希釈した次亜塩素酸ナトリウム溶液は作り置きせず、使用当日に作りましょう

解説

希釈した次亜塩素酸ナトリウム溶液は、時間とともに消毒効果が低下します。また、次亜塩素酸ナトリウムは紫外線に弱く、日光が当たると分解されて効果が失われるため、原液は冷暗所で保管します。

おう吐物や排泄物が付着した衣類は、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒します

✕ 間違った事例

おう吐物や排泄物が付着した衣類の消毒に、衣類洗濯用の酸素系漂白剤を使用している。

○ 正しい事例

おう吐物や排泄物で汚れた衣類は、付着物を取り除き、感染性胃腸炎を想定して次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒後、洗濯している。

おう吐物や排泄物が付着した衣類は、次亜塩素酸ナトリウム溶液で消毒します

解説

酸素系漂白剤は、衣類や環境の消毒には適しません。物理的に汚れを除くことによる除菌の効果にとどまります。

※塩素系漂白剤と酸素系漂白剤をまぜてはいけません。塩素ガスが発生し危険です。

おむつカートを使用するときの注意

✕ 間違った事例

介護の時などにおむつカートを使用する際に、カートに物品を山積みにし、汚染された物と清潔な物とが混在していた。

○ 正しい事例

おむつカートを使用する場合は、積載する物を極力減らして、汚染された物と清潔な物とを明確に分別する。

おむつカートを使用するときの注意

解説

おむつカートを介して感染が広がる危険があります。おむつカートを使用せざるを得ない場合は、物品をできるだけ少なくし、清潔な物と汚染された物を分けます。

おむつカートを使用するときの注意

解説

具体的には、①おむつカートの下段はホコリが舞い上がりやすいため不潔区域とし、上段を清潔区域とする方法がありますが、②可能であればおむつカート全体を不潔区域とし、清潔専用カートを別途用意する方法が望ましいです。また、利用者一人のケアを行う毎に、手指消毒とPPE(個人防護具)の交換が必要です。

おむつカートを使用するときの注意

補足事例

おむつカート上に①きれいな手袋と②ゴミ箱が隣り合って置かれ、清潔な物品が汚染されるリスクがあります。汚染された物と清潔な物は明確に分けましょう。ゴミ箱は清掃可能（例えばプラスチックの容器など）で蓋付きのものを使いましょう。

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 環境整備、換気・空調

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

東北大学大学院
金光 敬二 先生

東京都

環境整備の基本的な考え方

環境整備

施設の環境は清潔でなければならない　⇒　清掃

日常で使用する物品も清潔に管理　⇒　洗浄・乾燥・保管

必ずしも消毒する必要はない

スポルディングの分類
- クリティカル
- セミクリティカル
- ノンクリティカル

悪い例
- 従来の方法を踏襲している・・・×
- 施設で取り決めた方法を個人で変える・・・×

換気・空調

空気も環境と同様きれいでなければならない

空調設備を管理していない施設が多い

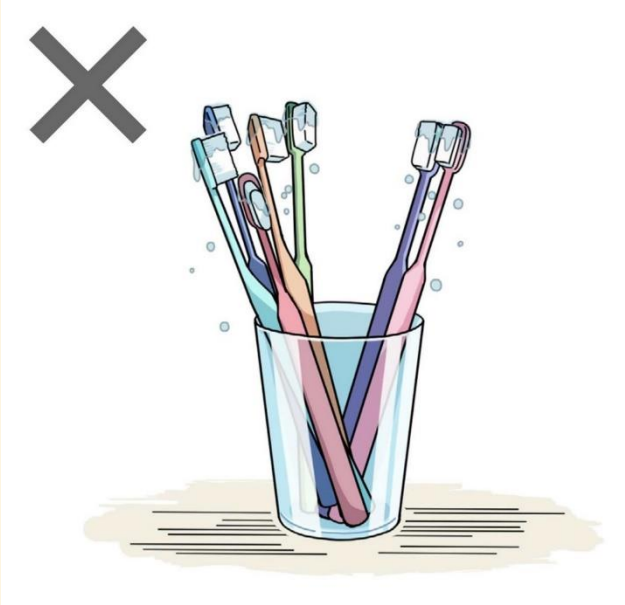
空調設備にほこり、カビ

換気は、感染対策上も重要

設立後２０年経つが・・

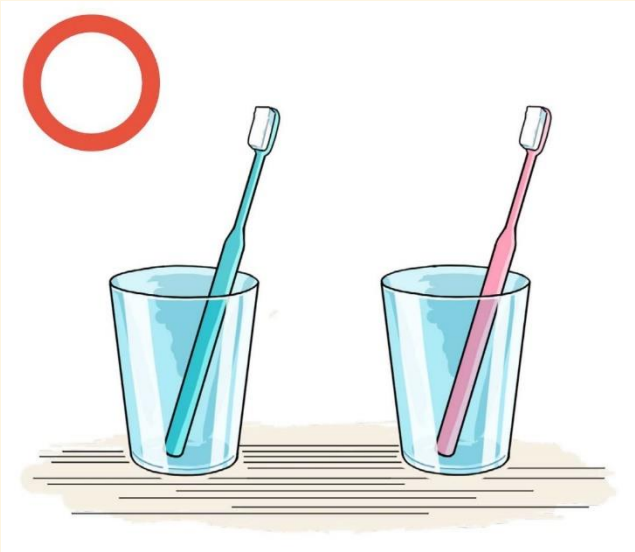
定期的な清掃を

歯ブラシは個別管理を徹底します



✕ 間違った事例

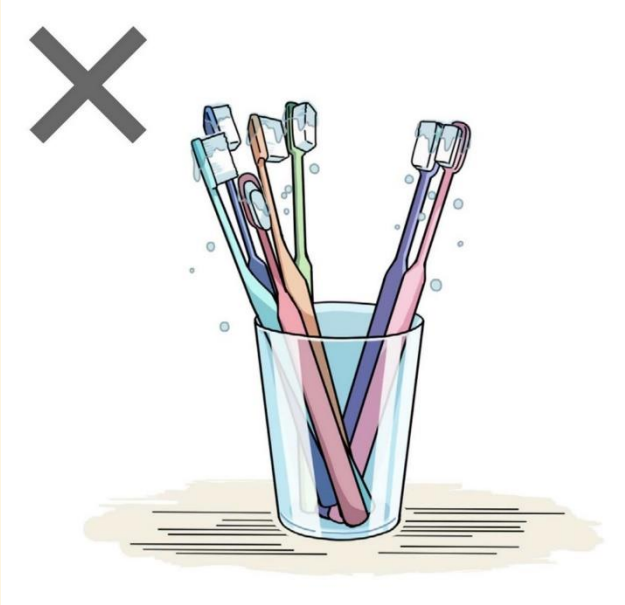
入所者の歯ブラシを塩素系漂白剤で洗浄し、まとめて保管している。

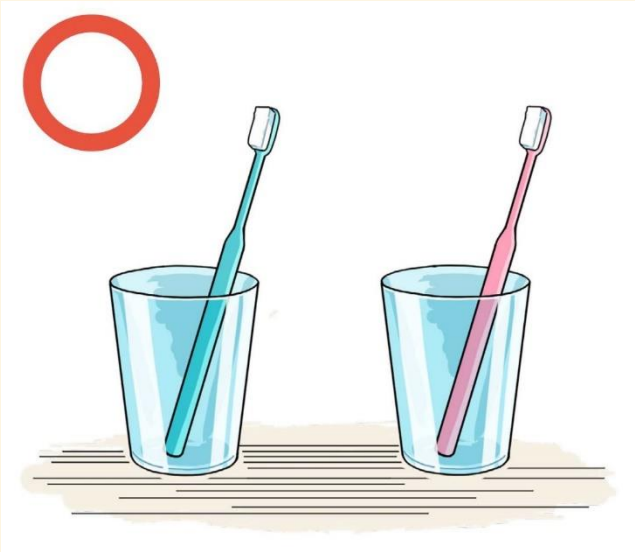


○ 正しい事例

歯ブラシは、流水で洗浄し、ブラシを上に向けて、互いに接触しないよう乾かしながら個別に管理している。

歯ブラシは個別管理を徹底します

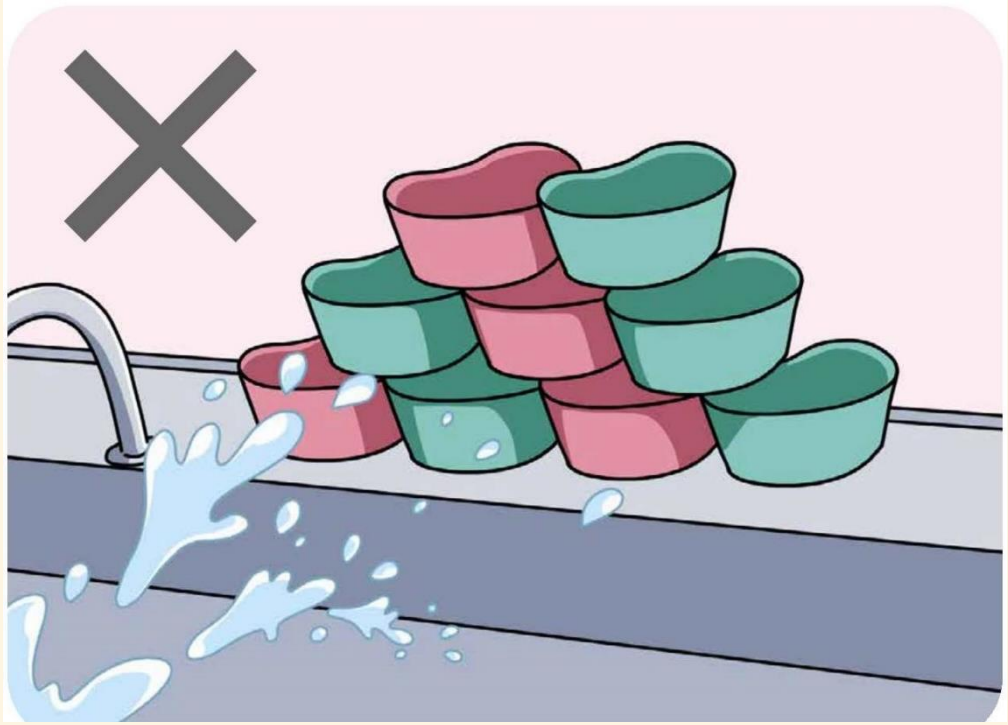




解説

　歯ブラシは消毒する必要はありません。体液による交差感染が起こる可能性があるので、やむを得ず集合して管理する場合、歯ブラシ同士が触れないよう十分に距離をとりましょう。

ガーグルベースンは水はねしない場所で乾燥させよう



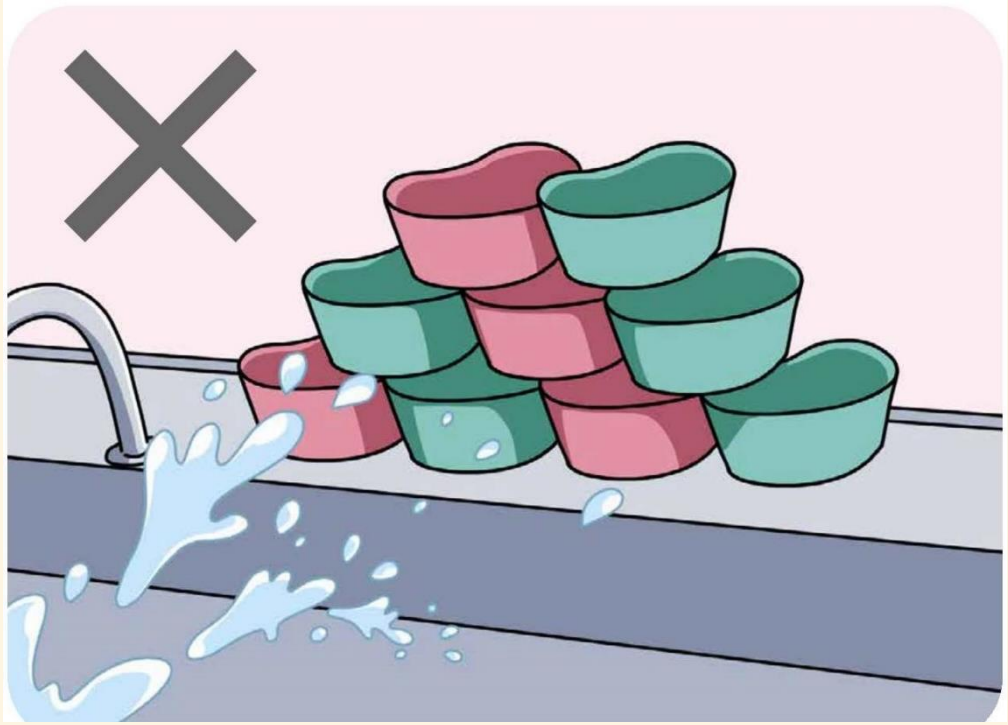
✕ 間違った事例

洗ったガーグルベースンをシンクの近くにそのまま置いている。

○ 正しい事例

ガーグルベースンを洗浄したら、水はねしない場所に移動させて乾燥させている

ガーグルベースンは水はねしない場所で乾燥させよう



解説

ガーグルベースンは、洗浄してから使用するまで清潔を保たなくてはいけません。せっかく洗浄しても、シンクの近くに置いておくと水はねによりグラム陰性菌等で汚染されることがあります。できるだけ汚染しにくい環境で乾燥させましょう。

口腔ケア用の水は、ケアの直前に蛇口から汲みます

✕ 間違った事例

準備は早いほうが良いので、口腔ケア用の水もできるだけ早く準備するようにしている。

○ 正しい事例

口腔ケア用の水は、ケアの直前に蛇口から汲んで使用している。

口腔ケア用の水は、ケアの直前に蛇口から汲みます

解説

汲んだ水を長時間放置しておくと、細菌が増殖するばかりか、ほこり等が混入しやすくなります。忙しくても、口腔ケア用の水はコップに溜め置きせず、ケアの直前に蛇口から汲みましょう。

加湿器は清潔に保つよう管理しましょう

✕ 間違った事例

加湿器のタンクを洗浄せず、古い水が入ったタンクへ水を継ぎ足している。

○ 正しい事例

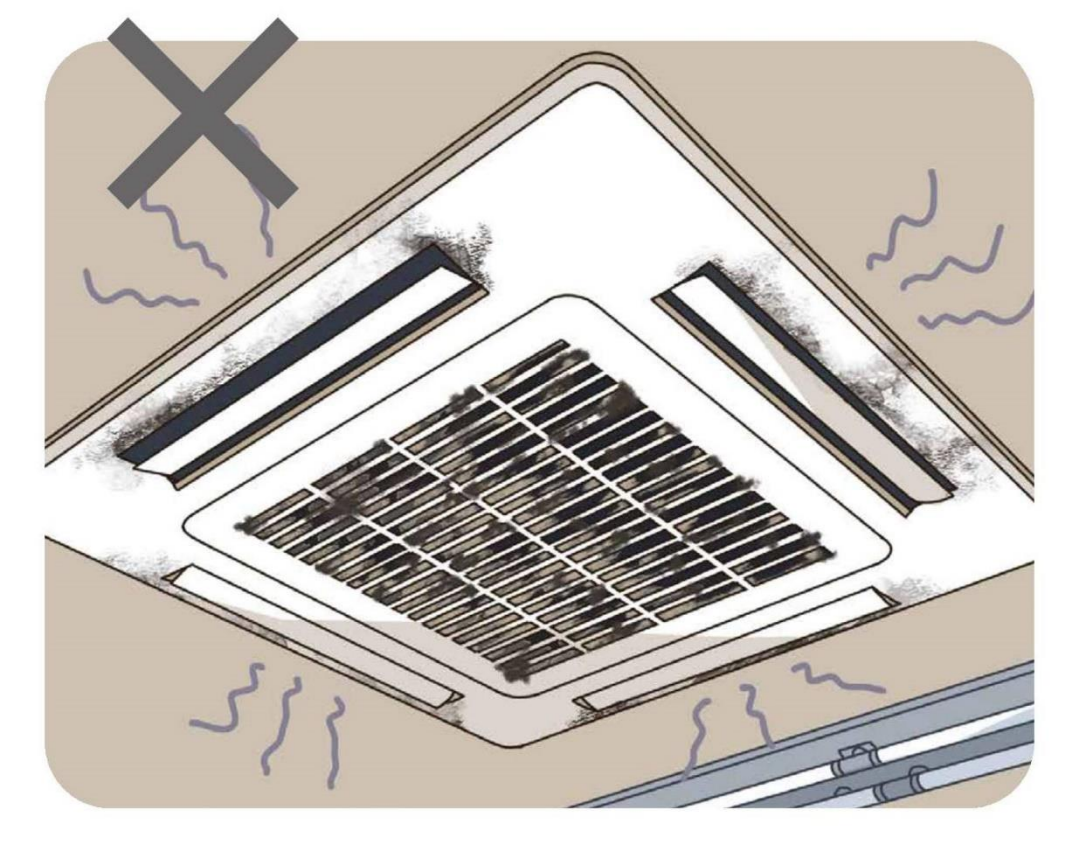
定期的に加湿器のタンクを洗浄し、給水している。

加湿器は清潔に保つよう管理しましょう

解説

加湿器は清掃を徹底します。タンクを適切に洗浄しないまま、水を継ぎ足しながら使用し続けると、細菌の増殖や感染による健康被害を引き起こすリスクがあります。

空調設備は定期的な清掃を行いましょう



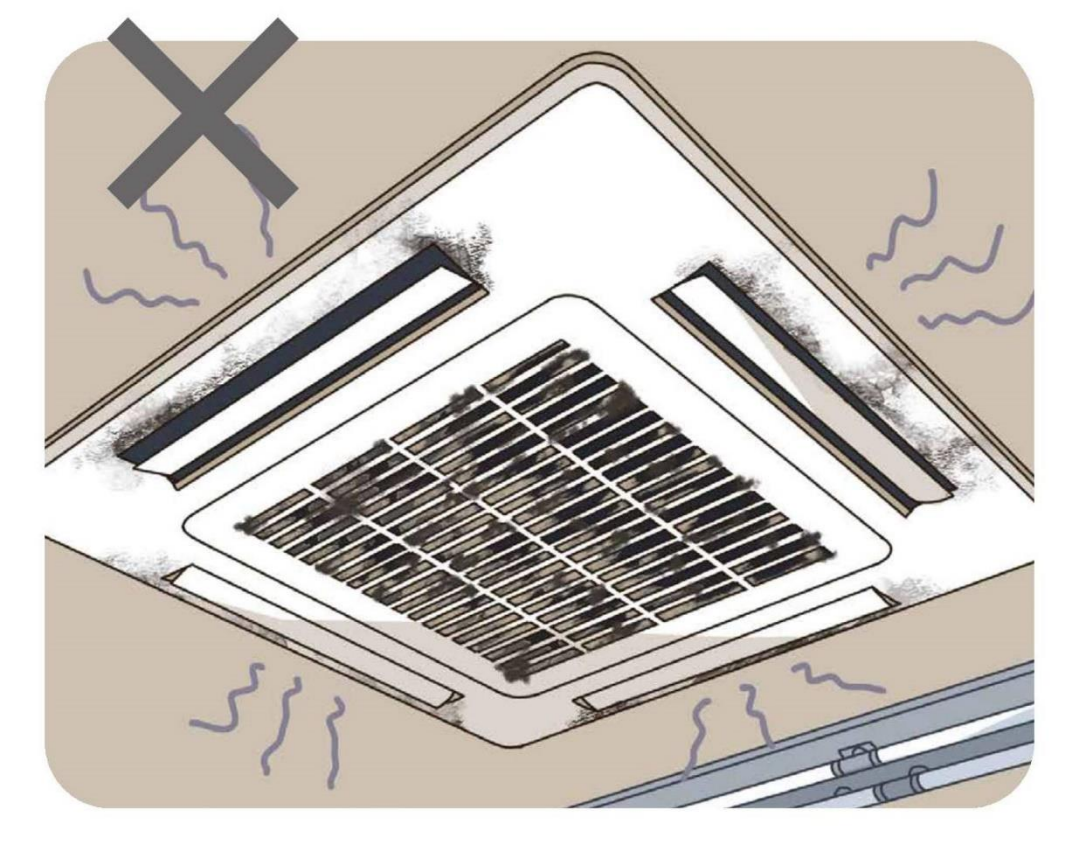
✕ 間違った事例

空調設備が清掃されておらず、ホコリなどで目詰まりをしている。

○ 正しい事例

定期的に空調設備の清掃、メンテナンスを行っている。

空調設備は定期的な清掃を行いましょう



解説

感染症対策の一環として、換気はとても重要です。空調設備が確実に機能するためには、定期的な清掃やメンテナンスが必要であり、「換気の悪い密閉空間」を改善するよう対策しましょう。

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画: 清潔・不潔

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

労働安全衛生総合研究所
産業保健に関するWHO協力センター
吉川 徹 先生

東京都

清潔・不潔

清潔・不潔

ポイント1　床は清潔ではありません

ポイント2　包交車は清潔なもののみ配置します

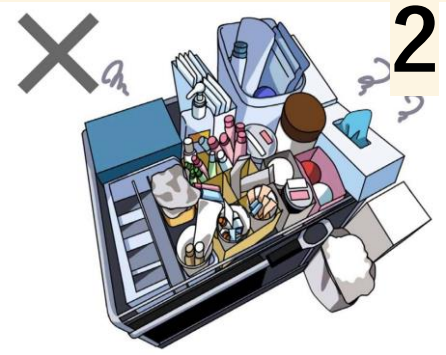
ポイント3　うがいは環境を汚染させやすいので

注意が必要です

ポイント4　食器の乾燥方法に注意しましょう

ポイント5　スポンジは定期的に交換します

ポイント6　詰替式の容器は洗浄して使用します



清潔・不潔

清潔・不潔

アルコール消毒液で
微生物（ばい菌）を
死滅させる
（手を清潔にする）

「清潔（せいけつ）」とは
・滅菌した状態
（すべての微生物を死滅させた状態）
・滅菌できないものでは殺菌した状態
（一部の微生物は生き残っているが、クリーンな状態）

「不潔（ふけつ）」とは
・清潔でない状態すべてを指し、不衛生だけでなく日常の生活状態も含まれます。

微生物（ばい菌）は
目に見えません

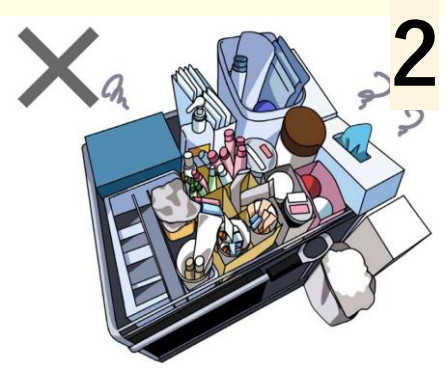
不潔な手で触れた
物品も不潔です。

清潔・不潔

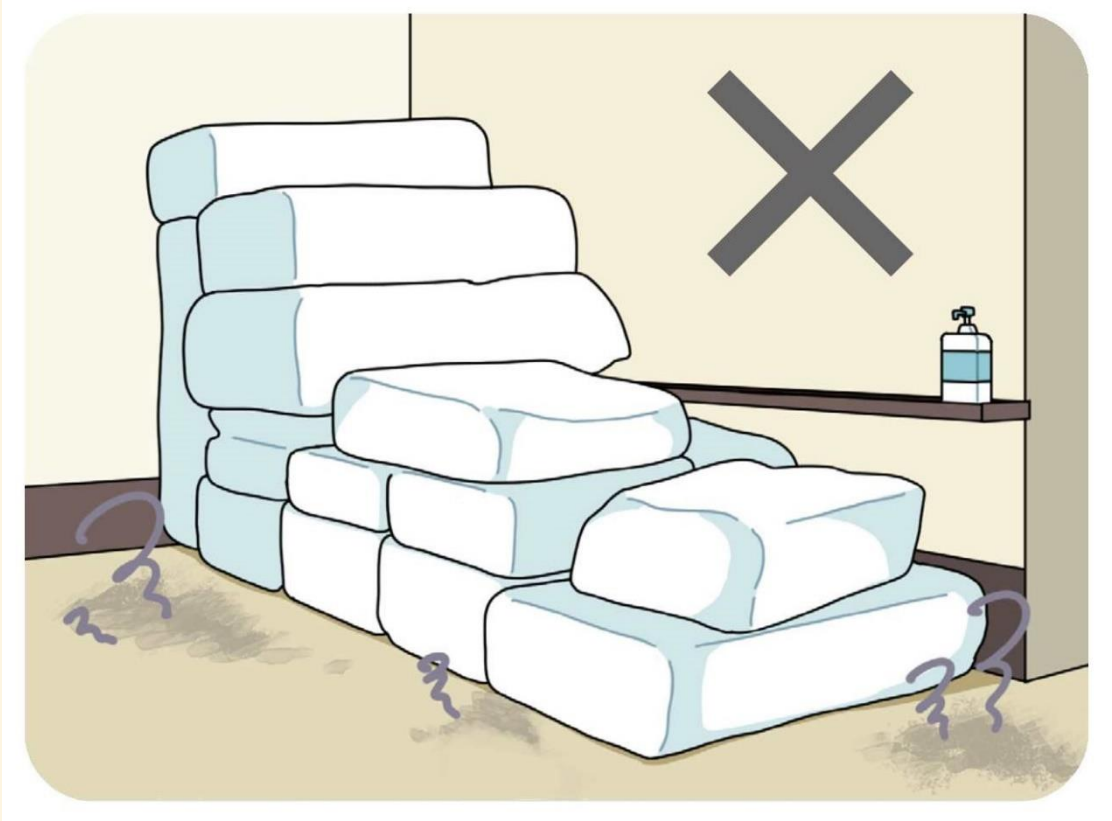
清潔・不潔

右図のぞれぞれの事例は、
なぜ間違った事例なので
しょうか。

清潔、不潔の考え方から
それぞれのポイントを
見ていきましょう。



ポイント１　床は清潔ではありません



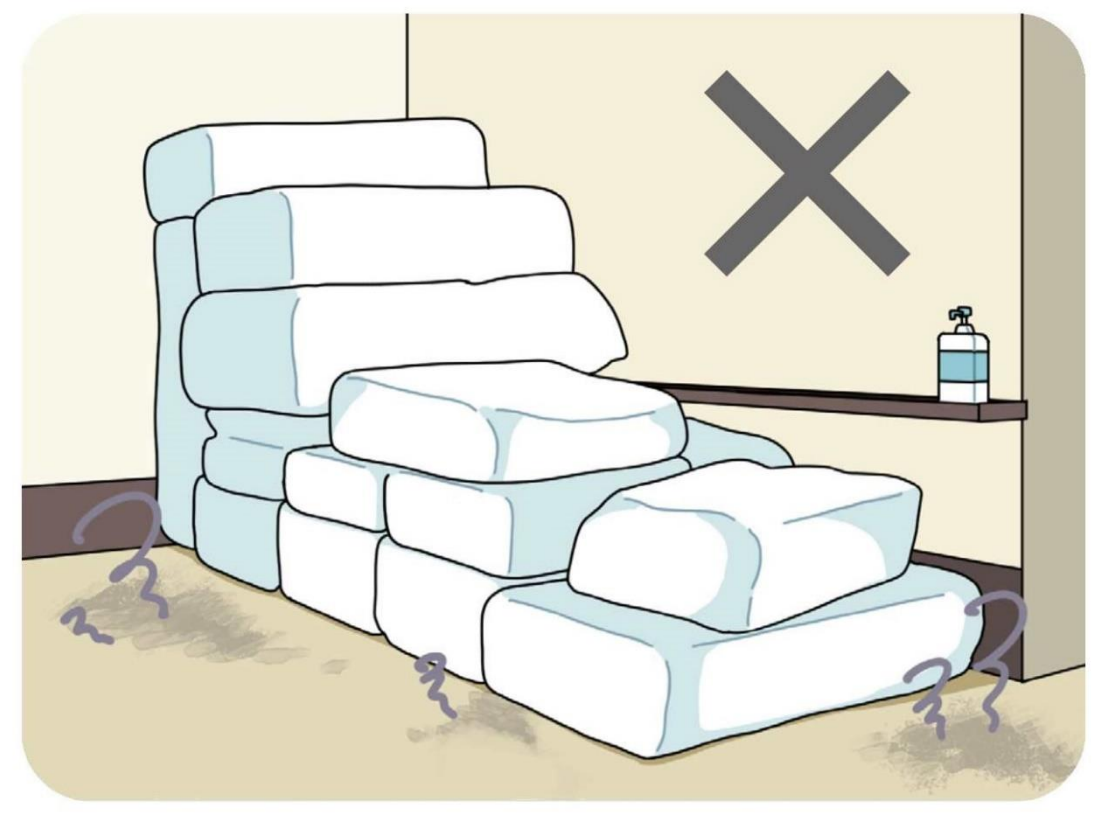
✕間違った事例

清潔な物品を床に直接置いている。

○正しい事例

清潔な物品は、床から30cm以上離して置いている。

ポイント１　床は清潔ではありません

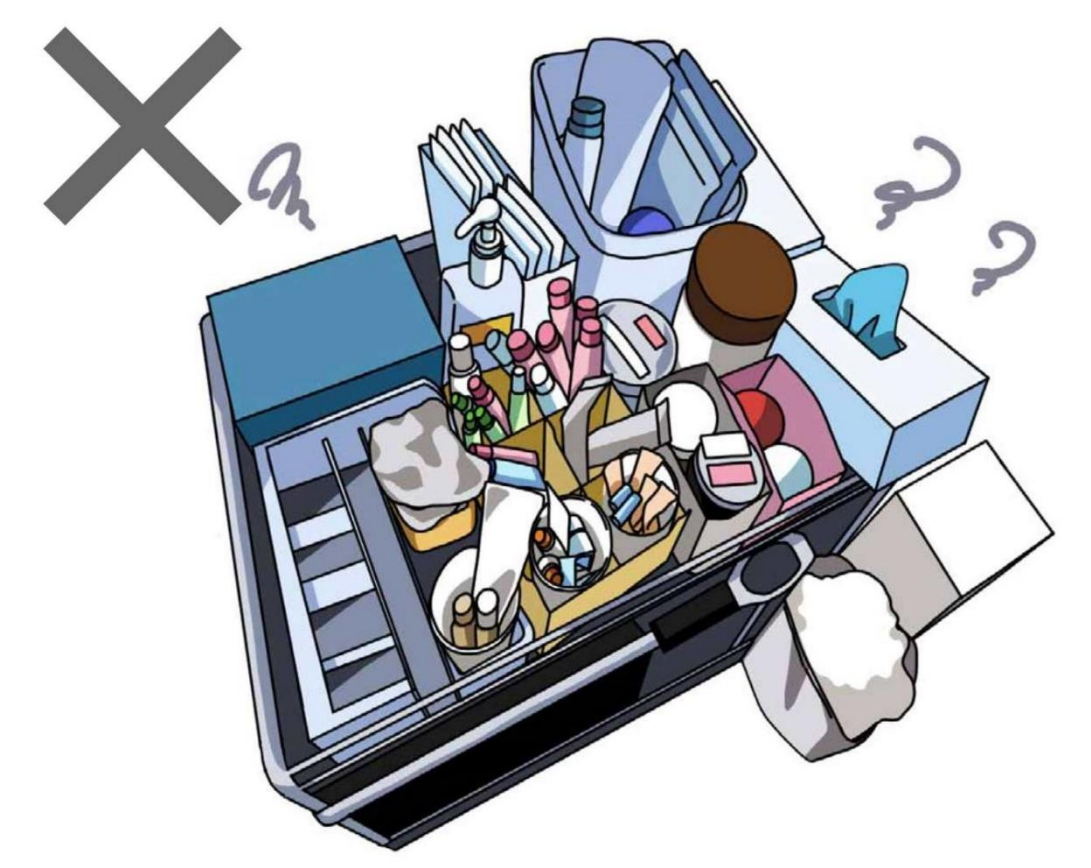


解説

・床は平時から不潔なものとして取り扱いましょう。
・洗濯後の清潔なシーツや衣類、タオルなどは床に直接置くと汚染されます。

・棚や台を活用して、床から30cmまでの間に清潔なものを置かないようにします。
・また、床は清掃しやすい状態を保ちましょう。

ポイント2　包交車は清潔なもののみ配置します



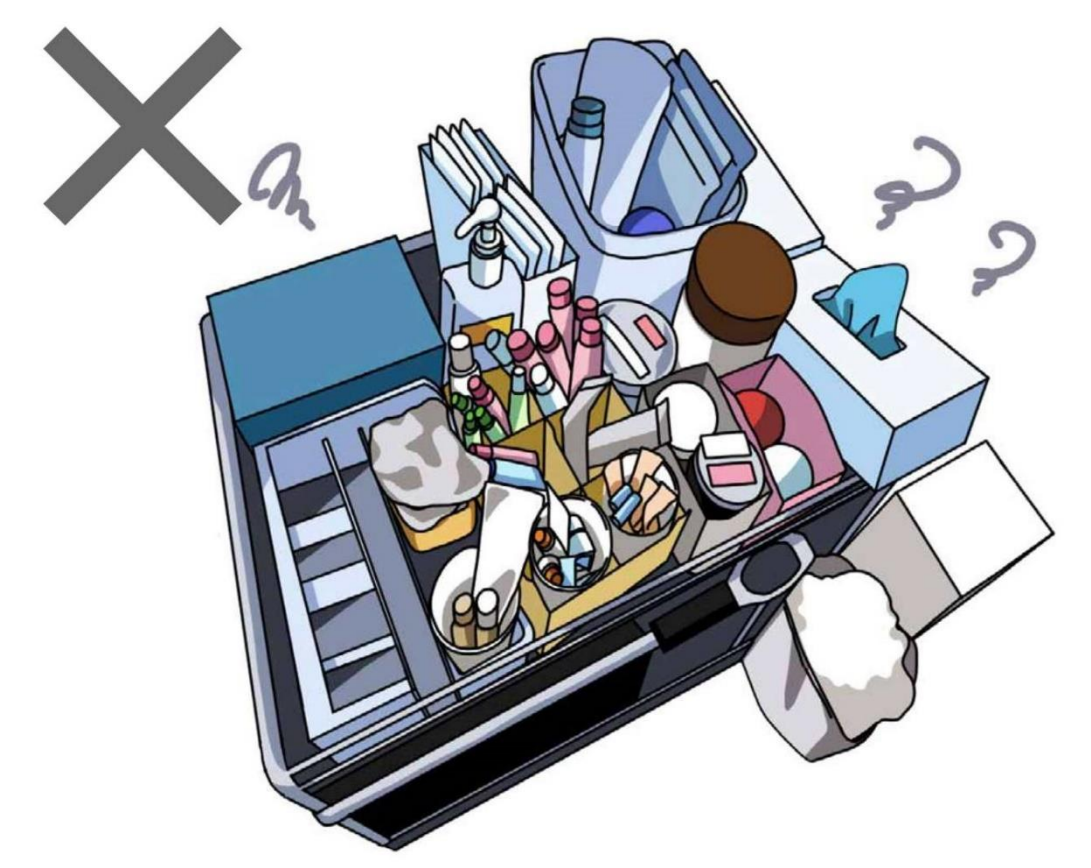
✕ 間違った事例

包交車に清潔なもの、不潔なものが混在している。

○ 正しい事例

包交車は清潔なもののみ配置します。

ポイント2　包交車は清潔なもののみ配置します



解説

・包交車には不潔なものは載せず、清潔なもののみ載せましょう。

・包交車の上段には不要な物品を置かず、清拭しやすくすることが望ましいです。

・また、個人用の軟膏類は個別管理とします。

ポイント3　うがいは環境を汚染させやすいので注意が必要です

✕ 間違った事例

共用の手洗い場でうがいをする。

○ 正しい事例

うがいをする場所と共用の手洗い場は分ける。

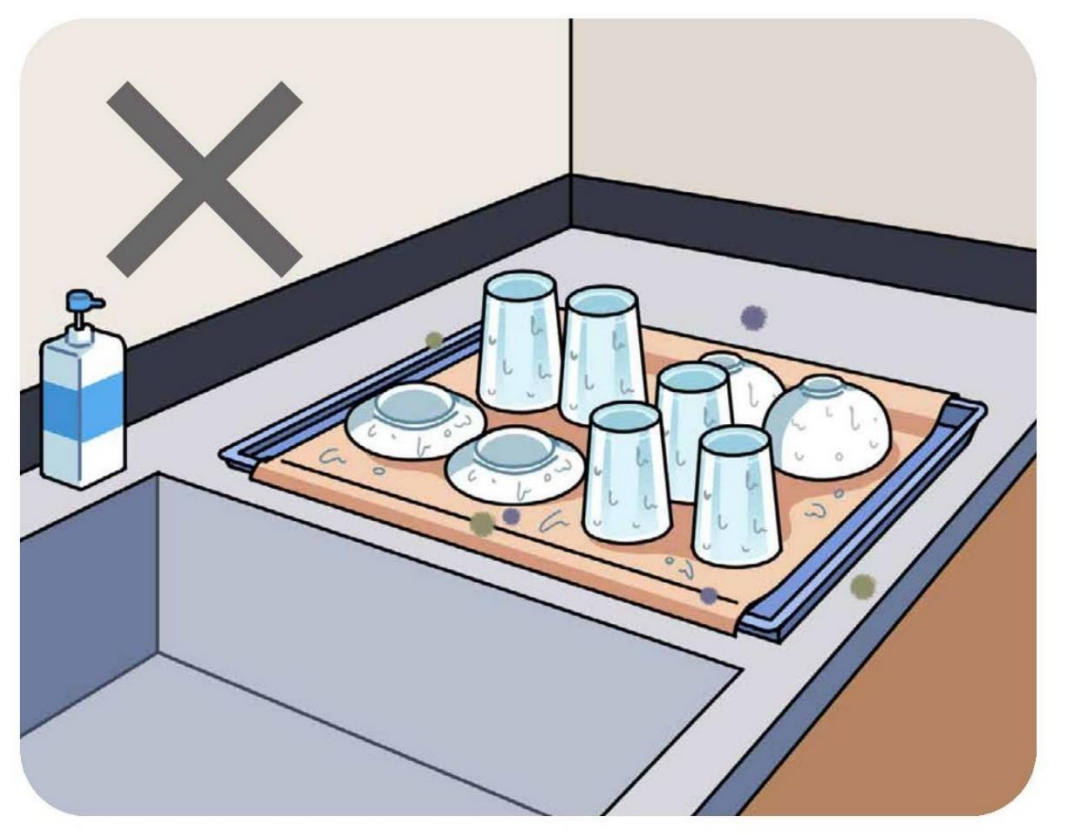
ポイント3　うがいは環境を汚染させやすいので注意が必要です

解説

・うがいは、吐き出した水で共用の手洗い場を汚染する可能性があるため、注意が必要です。

・利用者がうがいをするときは、居室など各利用者個人が使用する場所を使用してもらうことで共用の手洗い場と分けるか、場所の確保が難しい場合は、うがい後速やかに清掃しましょう。

ポイント4　食器の乾燥方法に注意しましょう



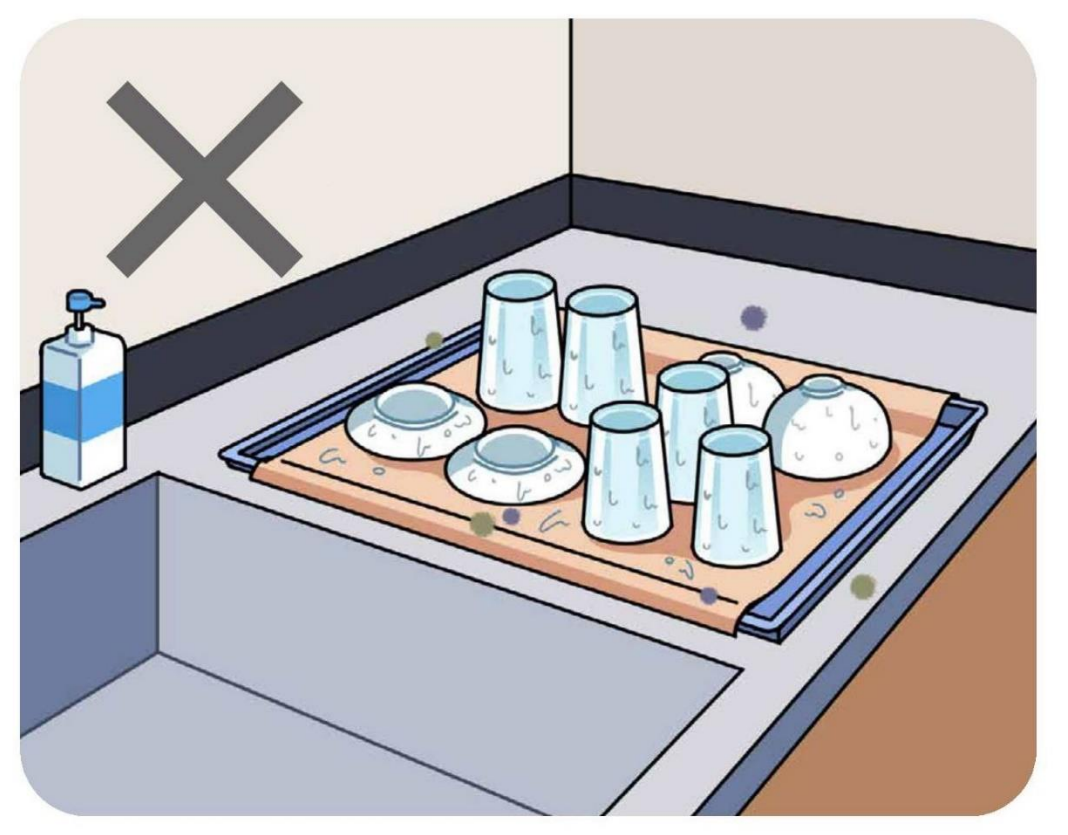
✕ 間違った事例

タオルの上で濡れた食器を乾燥させる。

○ 正しい事例

食器を洗浄可能な水切りカゴで乾燥させる。

ポイント4　食器の乾燥方法に注意しましょう



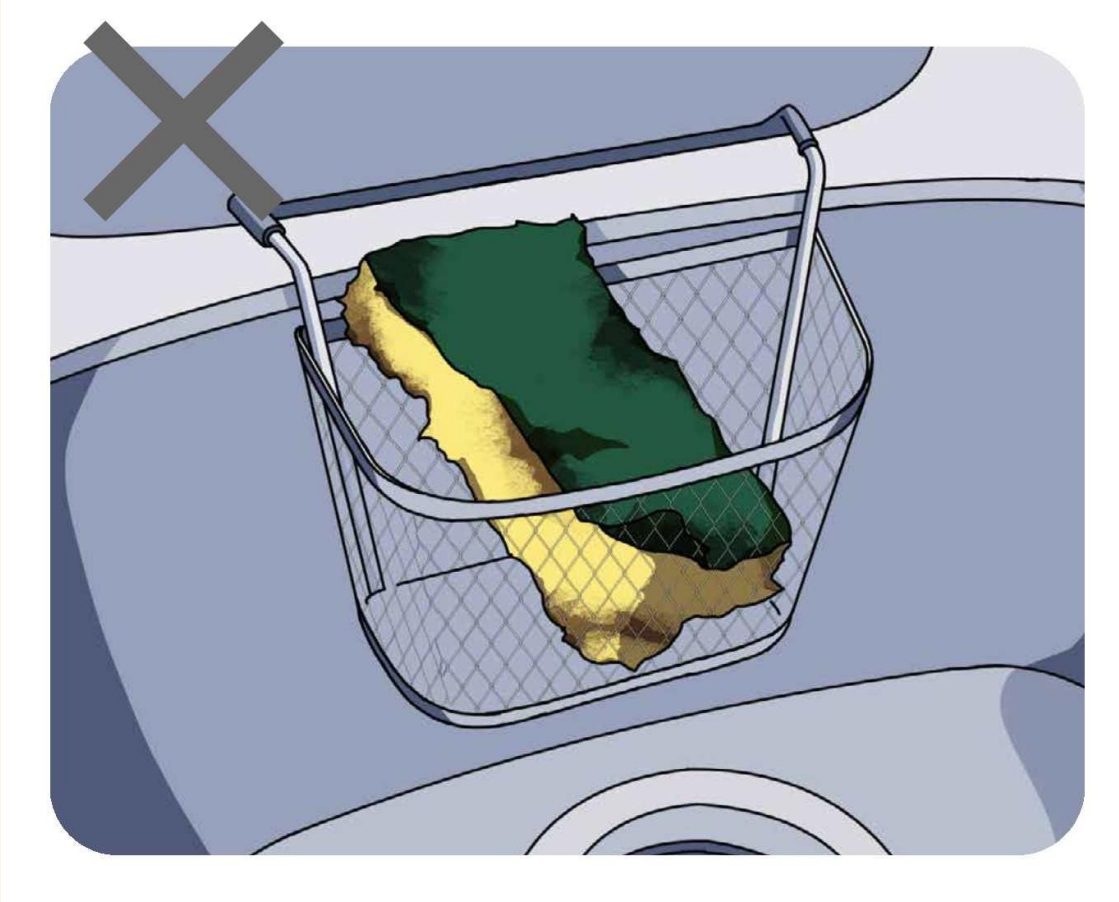
解説

・濡れたタオルは、細菌の温床になります。

・濡れた食器の下にタオルやペーパータオルを敷いて、食器や物品を乾燥させるのは適切ではありません。

・洗浄可能な水切りカゴで乾燥させ、乾燥後は扉のついた食器棚へ片付けましょう。

ポイント5　スポンジは定期的に交換します



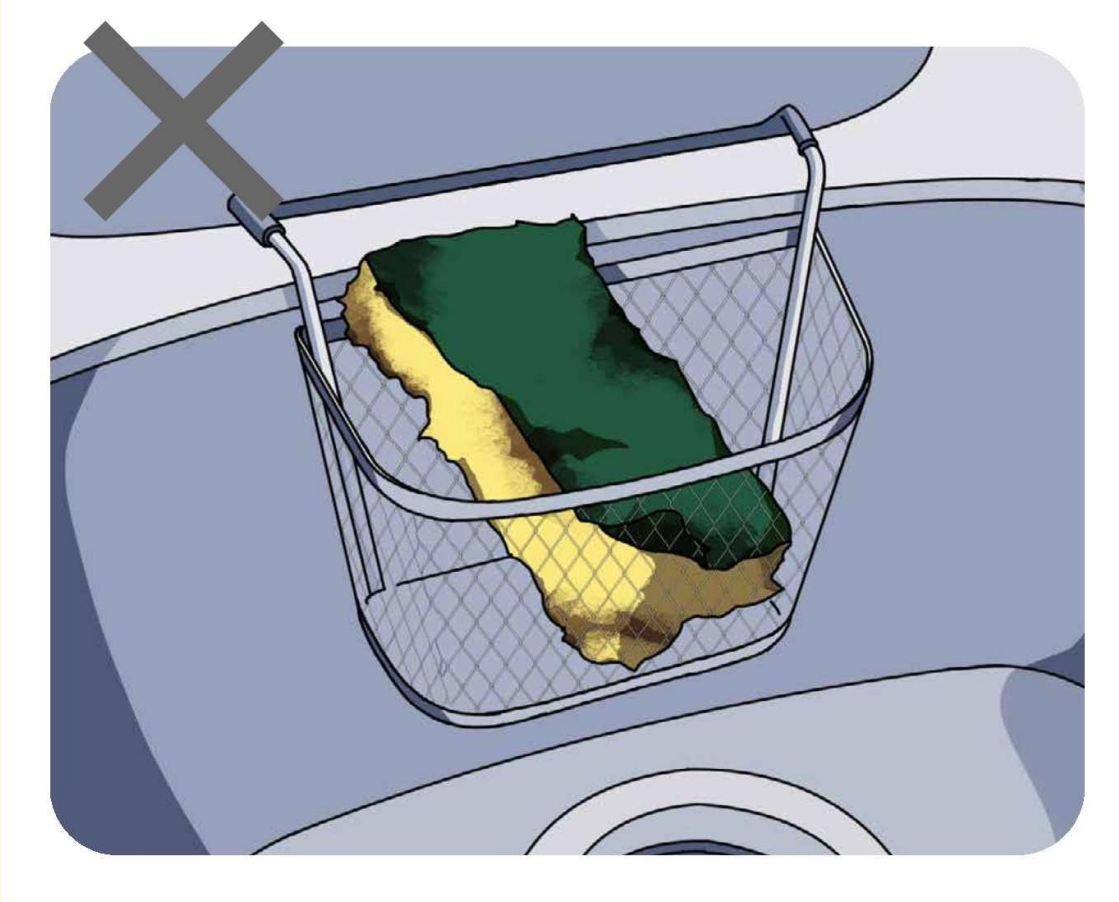
✕ 間違った事例

古いスポンジを長期間交換していない。

○ 正しい事例

スポンジを定期的に交換している。

ポイント5　スポンジは定期的に交換します



解説

・スポンジは細菌等が増殖するので、使用後は洗浄し、十分に水気を絞って乾燥させる必要があります。

・また、1週間に1回程度が新しいスポンジに交換する目安です。

ポイント6　詰替式の容器は洗浄して使用します

✕ 間違った事例

ハンドソープなどの詰替式容器を洗浄・乾燥せずに中身を継ぎ足して、長期間使用している。

○ 正しい事例

詰替式の容器は、洗浄・乾燥後に中身を詰め替えて再利用している。

ポイント6　詰替式の容器は洗浄して使用します

解説

・詰替容器の洗浄・乾燥が行われないと、水場を好むグラム陰性菌等に汚染されるリスクがあります。

・また、詰替時にチリやホコリが混入し、芽胞汚染を受ける可能性があります。

まとめ

清潔・不潔

1 床は清潔ではありません

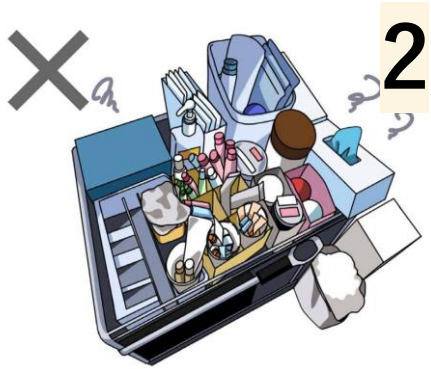
2 包交車は清潔なもののみ配置します

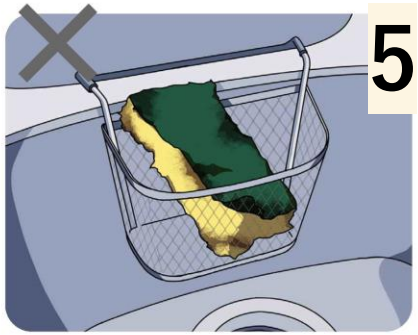
3 うがいは環境を汚染させやすいので
注意が必要です

4 食器の乾燥方法に注意しましょう

5 スポンジは定期的に交換します

6 詰替式の容器は洗浄して使用します





高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 医療廃棄物

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

埼玉医科大学国際医療センター
光武 耕太郎 先生

東京都

感染リスクを抑えるために

1. 「感染のリスクを減らす行動」を心がけましょう
2. 環境整備は感染対策の基本です
3. こまめな手指衛生（手洗い・ 消毒）を徹底しましょう
4. 感染性廃棄物の管理はルールを守って行いましょう

感染性廃棄物の管理

1. 感染性廃棄物は適切な場所で保管しましょう
2. 専用の容器を使用し、再利用は避けてください
3. 使用済のPPEは分別して廃棄を徹底しましょう
4. バイオハザードマークの表示を確認してください

感染性廃棄物はステーションに持ち込みません

✕ 間違った事例

感染性廃棄物を保管場所へ移動する途中で、感染性廃棄物を載せたカートが、一時的にスタッフステーション内を通過したり、短時間だけスタッフステーション内に感染性廃棄物を仮置きすることがある。

○ 正しい事例

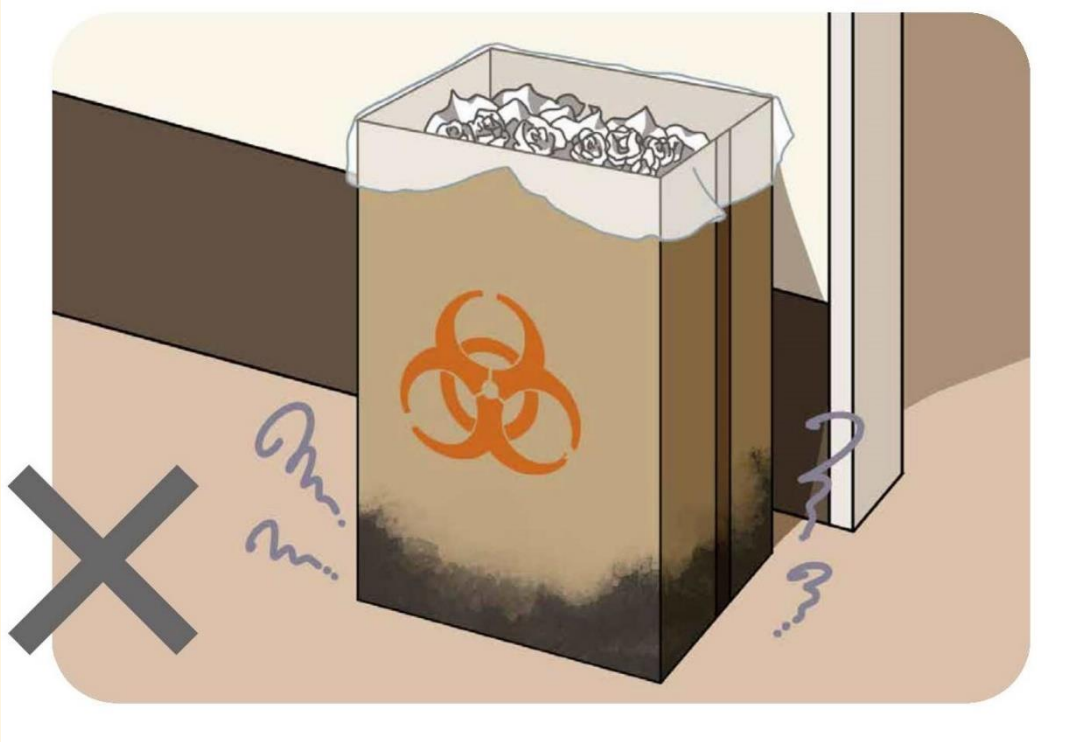
感染性廃棄物および運搬用のカートは、スタッフステーションに持ち込まない。

感染性廃棄物はステーションに持ち込みません

解説

スタッフステーション内で汚染が起きる可能性があるので、たとえ一時的であっても感染性廃棄物をスタッフステーションに持ち込んではいけません。感染性廃棄物を廃棄するまでの流れを確認する必要があります。

感染性廃棄物は適切に管理しましょう



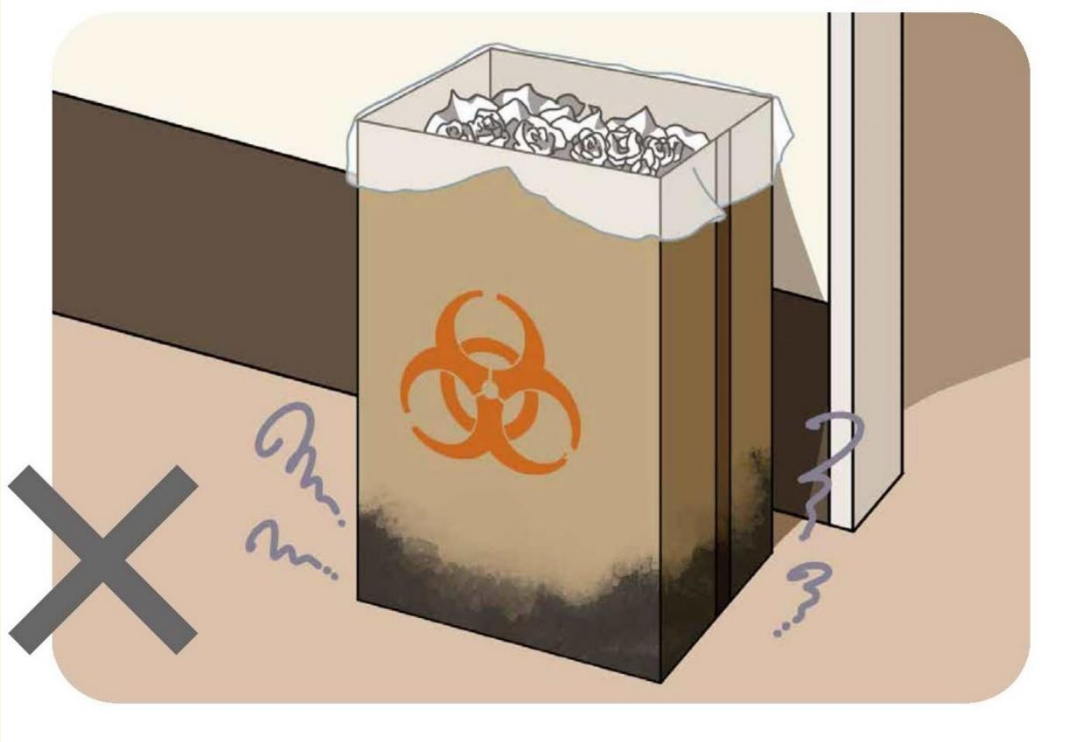
✕ 間違った事例

感染性廃棄物を段ボール箱に廃棄しているが、一度使った段ボール箱を繰返し使用している。

○ 正しい事例

段ボールの感染性廃棄物容器は再利用しない。

感染性廃棄物は適切に管理しましょう



解説

感染性廃棄物の容器は、①密閉できる、②収納しやすい、③損傷しにくいものを選択し、バイオハザードマークの表示が必要です。段ボール箱は湿気を含み、カビやダニの温床となるので、内側にビニール袋を用います。液状や泥状の便などの感染性廃棄物は、ビニール袋の封をして箱ごと廃棄して、一度使った段ボール箱を再利用するのは避けましょう。

廃棄物は正しく分別しましょう

✕ 間違った事例

使用済のPPE(個人防護具)と一般廃棄物を混合廃棄している。

○ 正しい事例

使用済のPPEを正しく分別して廃棄している。

廃棄物は正しく分別しましょう

解説

PPEは標準予防策や感染経路別予防策に則って使用します。標準予防策とは、感染症の有無に関わらず、湿性生体物質（血液、汗を除く全ての体液、分泌物、傷のある皮膚、粘膜）は感染性のあるものとして、対応するという考え方です。

廃棄物は正しく分別しましょう

解説

使用済のPPEは、感染リスクがあるため、感染性廃棄物として廃棄します。一方、未使用のPPEが包まれていた外装(ビニール袋等)は一般廃棄物として分別します。

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 手指衛生

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

国際医療福祉大学
松本 哲哉 先生

東京都

介護施設内の重要な感染経路と対策

感染経路	代表的な病原体
接触感染	細菌（耐性菌） MRSA, ESBL産生菌、多剤耐性緑膿菌（MDRP）， バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）， カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）など ウイルス ノロウイルス、インフルエンザ、COVID-19など ダニ 疥癬，など
飛沫感染	インフルエンザ，RSウイルス、肺炎球菌、百日咳， 肺炎マイコプラズマ，COVID-19など
空気感染	結核

1）手指衛生

2）個人防護具(PPE)

3）環境の消毒

4）個室管理

手指衛生の5つのタイミング（WHO）

手指衛生の5つのタイミング（WHO）

- 患者に触る前
- 清潔な処置を行う前
- 患者の体液に触れた後
- 患者に触れた後
- 病室の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前
- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前

- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後

介護施設における手指衛生の5つのタイミング

- 入所者に触る前
- 入所者にケアを行う前

→きれいな手で入所者を触る

- 入所者の体液に触れた後
- 入所者に触れた後
- 部屋の環境に触れた後

→汚れたらきれいにする

適切に手指衛生を行うために

- 必要な場所に消毒薬を配置する
- 消毒薬の配置が難しければ各自携帯する
- 消毒薬は適切に管理する
  （有効期限切れなど）

手指消毒薬は必要な場所に配置します

✕ 間違った事例

手指消毒薬が必要な場所に配置されていない。動線上に手指消毒薬が無い、もしくは少ない。

○ 正しい事例

感染が確認されている入所者の部屋の入口など、必要な場所に消毒薬を設置する。入所者の誤飲リスクにより手指消毒薬の設置が困難な場合は、職員全員が個人持ち用のものを携帯する。

手指消毒薬は必要な場所に配置します

解説

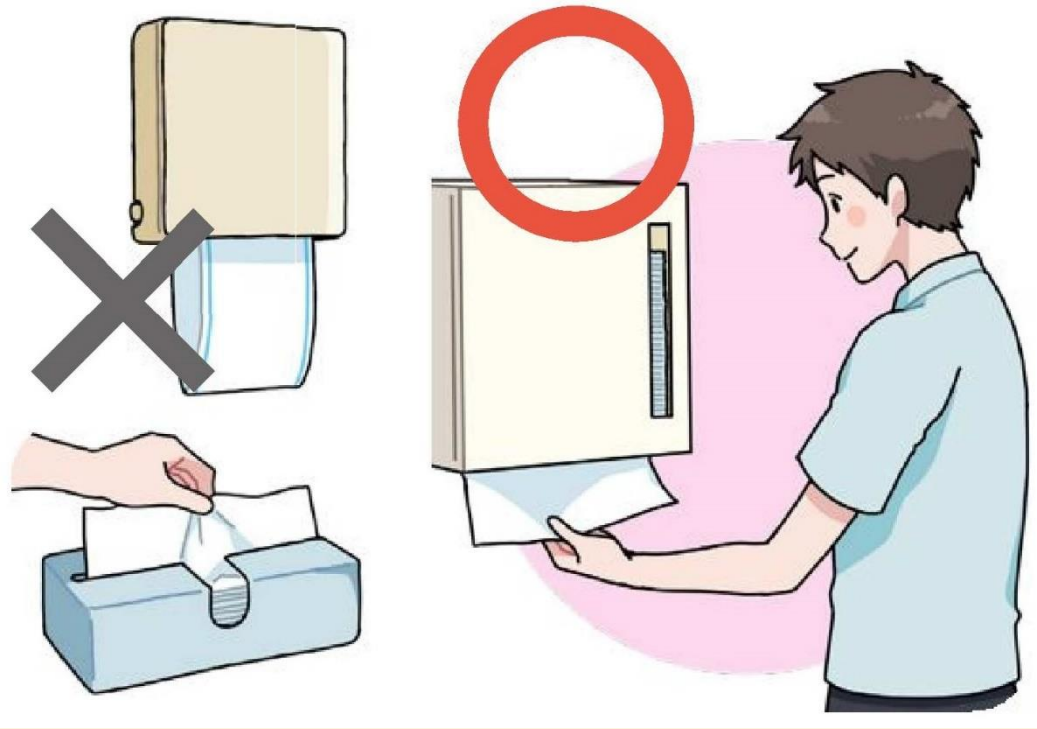
手指消毒は必要なタイミングで速やかに行うことが大切です。そのためにはインフルエンザ、新型コロナウイルス、耐性菌などに感染している入所者の部屋の入り口など、必要な場所に設置して、入室前後で消毒を行う必要があります。さらに、日常業務で汚染しやすい汚物室などにも設置しましょう。また、清潔に配慮すべき食品や飲み物を扱う場所も設置が望ましいです。

手指消毒薬は必要な場所に配置します

解説

ポシェットタイプの手指消毒薬を各自携帯すれば、こまめに消毒ができます。手指消毒薬はアルコールを含有し、引火する可能性がありため火気の近くには置かず、倒れてこぼれないよう安定した場所に置くか、専用の設置容器で固定しましょう。なお、アルコール手指消毒薬には使用期限があるので、使用開始日を容器に記載し、期限を越えないように管理しましょう。

壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



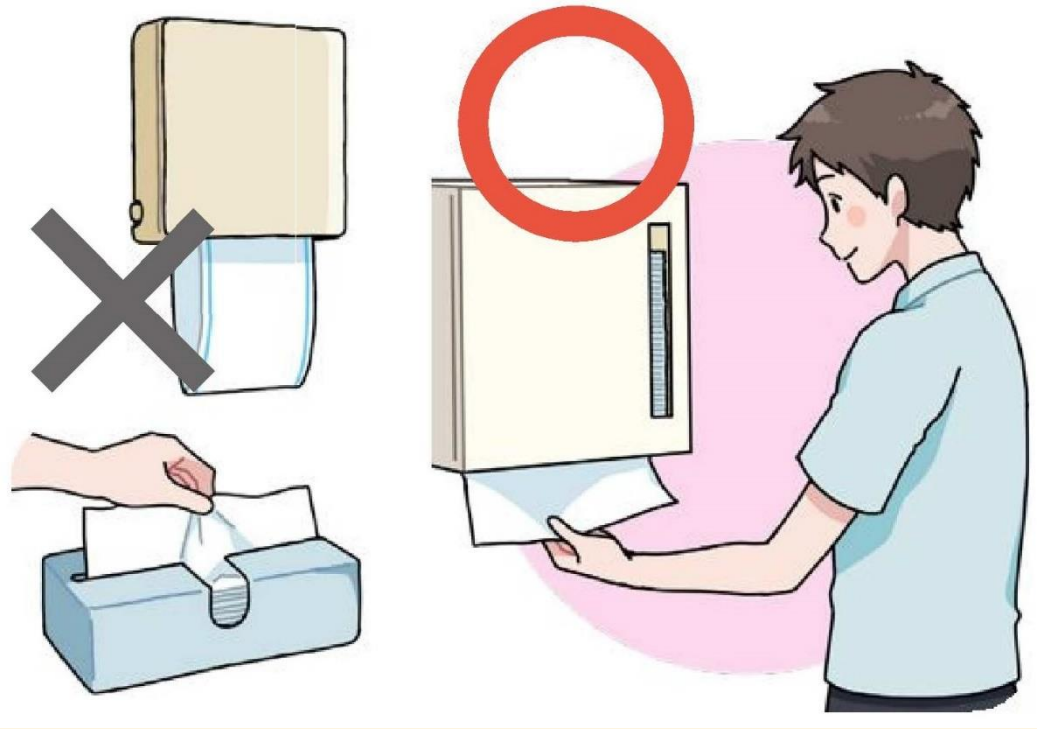
✕ 間違った事例

ロール式タオルや、据置きタイプ（上へ引き出すタイプ）のペーパータオル・ホルダーを使用している。

○ 正しい事例

壁掛けタイプ（下へ引き出すタイプ）のホルダーで、ディスポのペーパータオルを使用している。

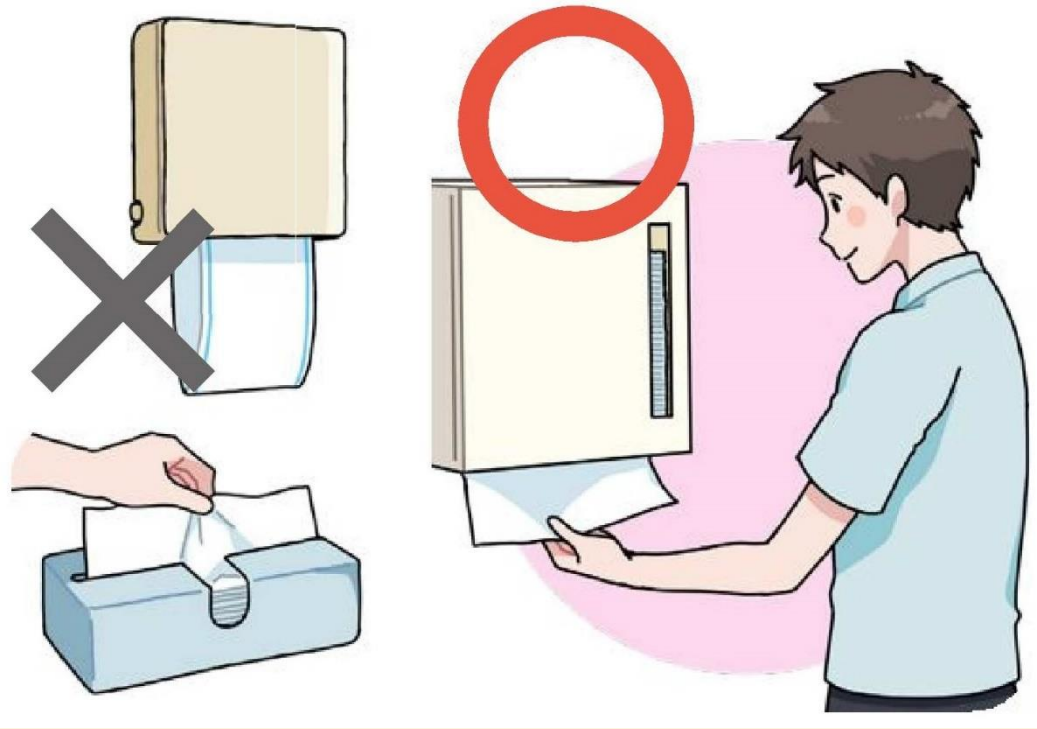
壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



解説

ロール式タオルは他の人とタオルを共有することになり、回転が不十分だと、前の人が手を拭き病原体で汚染された部分で次の人が手を拭き、感染が広がる可能性があります。手を拭くときは、ディスポのペーパータオルを使用しましょう。

壁掛けタイプのペーパータオル・ホルダーを使いましょう



解説

ディスポのペーパータオルを据置きタイプ(上へ引き出すタイプ)のホルダーで使用すると、濡れた手から落ちる水滴で、次の人が使うペーパータオルが汚れます。壁掛けタイプ(下へ引き出すタイプ)のホルダーを使用します。

ポケット内は汚染されやすい場所なので注意が必要です

✕ 間違った事例

ポケット内の鍵やPHSを触った手で、
そのまま利用者のケアをしている。

○ 正しい事例

ポケット内に触った後は、利用者に触れる
前に手指消毒をしている。

ポケット内は汚染されやすい場所なので注意が必要です

解説

勤務中、ポケットに色々な物を入れて使用すると、手指が汚染されやすくなります。必要のない物は、極力ポケットに入れないようにしましょう。また、ポケット内のものに触れた後は、利用者のケアを行う前に手指消毒をしましょう。

手指衛生に関するまとめ

- 職員の手指を介してさまざまな感染症が広がるリスクがあります
- 手指衛生は感染対策の基本であり介護施設でも常に意識して取り組むべき対策です
- 忙しいから、面倒だからというのはやらない理由にはなりません
- 適切な消毒薬の配置など手指衛生をやりやすい施設内の環境作りを行いましょう

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画　PPE(個人防護具)

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

聖マリアンナ医科大学
國島 広之 先生

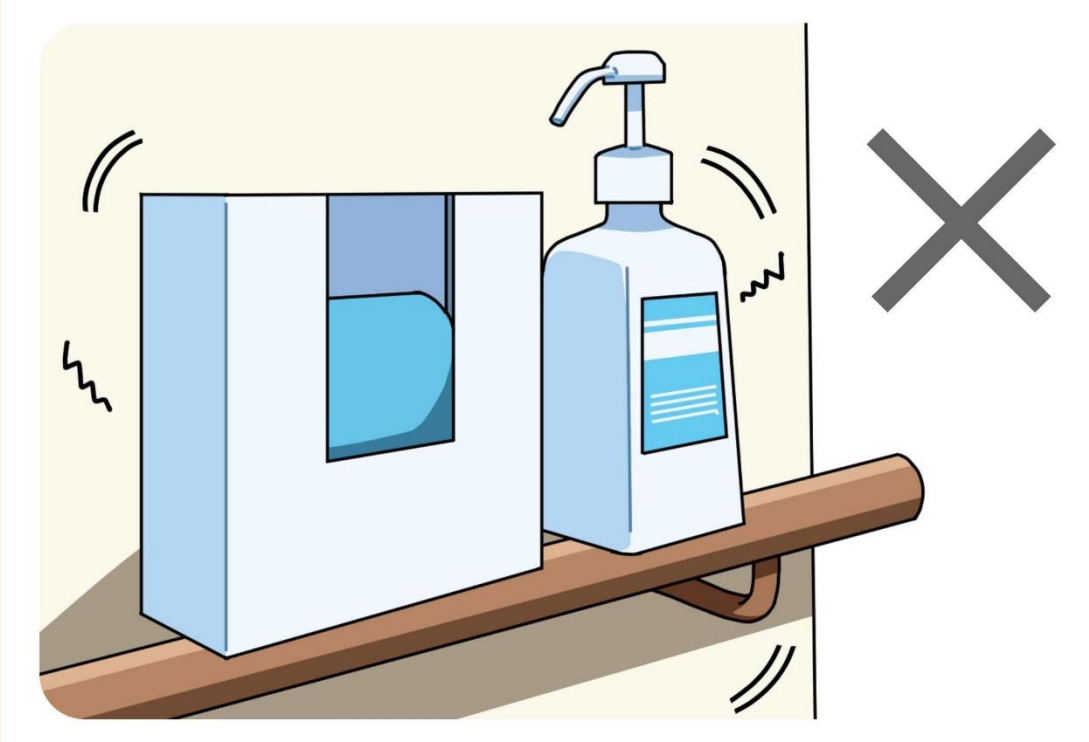
東京都

PPE（個人防護具）

PPE（個人防護具）は、入所者ならびに職員の感染予防のために使用する装備です。マスク、ガウン、エプロン、手袋、ゴーグルなどがあります。
清潔な管理、適切な使用、正しい着脱と廃棄が感染拡大防止のポイントです。

- ✓未使用のPPE(個人防護具)は清潔な場所に設置します
- ✓PPE(個人防護具)は再利用しません
- ✓おむつ交換ではPPE(個人防護具)を着用します
- ✓PPE(個人防護具)や白衣は消毒薬で消毒しません
- ✓事務室などのエリアではPPE(個人防護具)を着用しません
- ✓PPE(個人防護具)を着脱する環境を整備しましょう

未使用のPPE(個人防護具)は清潔な場所に設置します



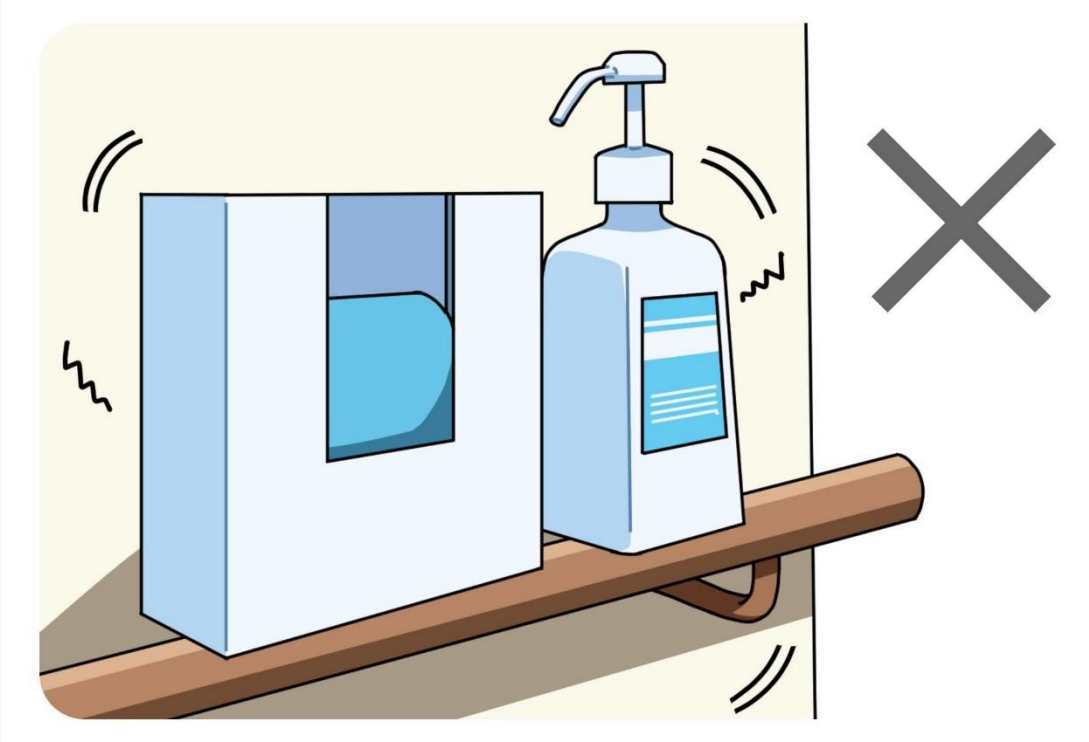
✕ 間違った事例

未使用のPPEが汚染される恐れのある場所に設置されている。

○ 正しい事例

未使用のPPEが清潔な場所に設置している。

未使用のPPE(個人防護具)は清潔な場所に設置します



解説

PPEを手すりに立てかけるなど、不安定な状態で設置すると、床に落下してPPEが汚染されます。PPEホルダーを利用するか、イスや小さなテーブルを置くなどしてPPE置き場を作りましょう。

PPE(個人防護具)は再利用しません

✕ 間違った事例

利用者のケアに使ったPPEを捨てずに、再利用している。

○ 正しい事例

一度着用したPPEは再利用せず、利用者ごとに使い捨てて対応する。

PPE(個人防護具)は再利用しません

解説

PPE（個人防護具）の再利用は、汚染されたPPEが次に使う入所者に触れることにより、感染が拡がる危険性が高いです。PPEの残数や入荷予定数を確認し在庫状況を常に明らかにして、必要なPPEを計画的に手配しましょう。脱衣後は、足踏み式のふた付きごみ箱に廃棄しましょう。

おむつ交換ではPPE(個人防護具)を着用します

✕ 間違った事例

おむつ交換を布製のエプロンやガウンで対応している。

○ 正しい事例

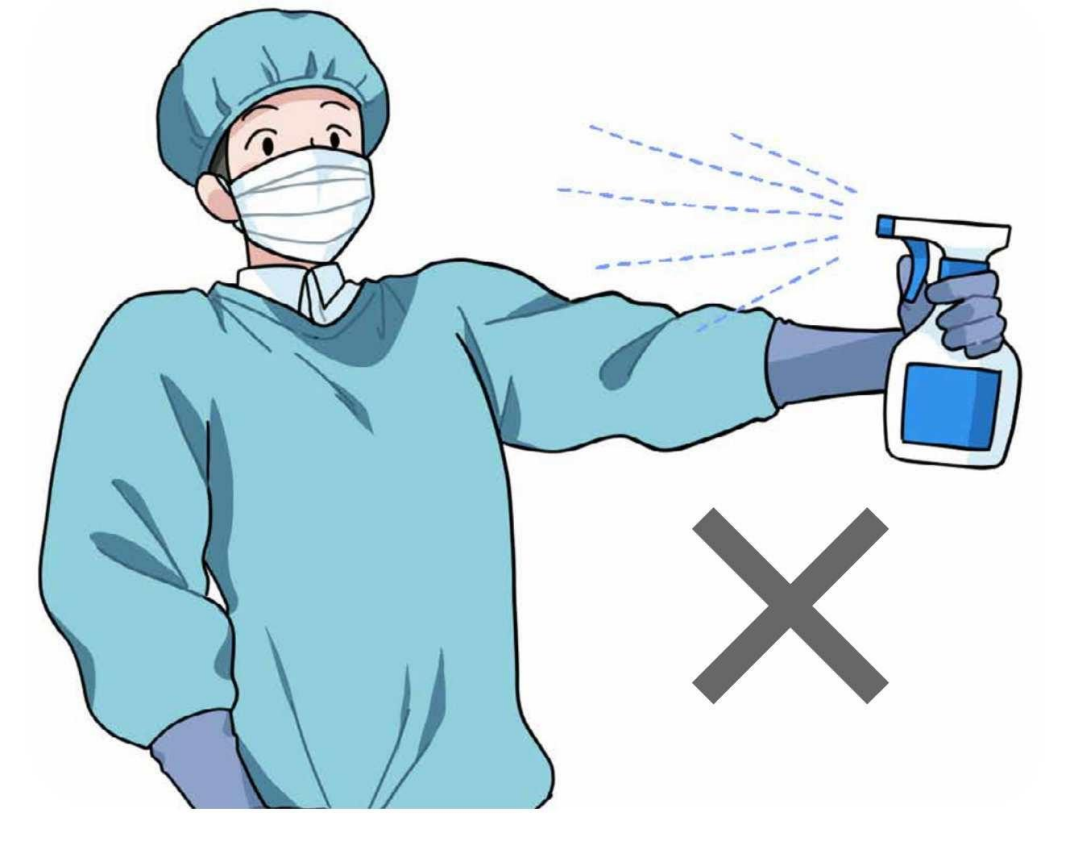
おむつ交換では撥水性のあるPPE（個人防護具）を使用する。

おむつ交換ではPPE(個人防護具)を着用します

解説

おむつ交換など感染リスクがあるケアでは、布製のエプロンやガウンではなく、撥水性のあるPPEが必要です。利用者1人に接触するごとに、PPEの交換と手指衛生を行いましょう。

PPE(個人防護具)や白衣は消毒薬で消毒しません



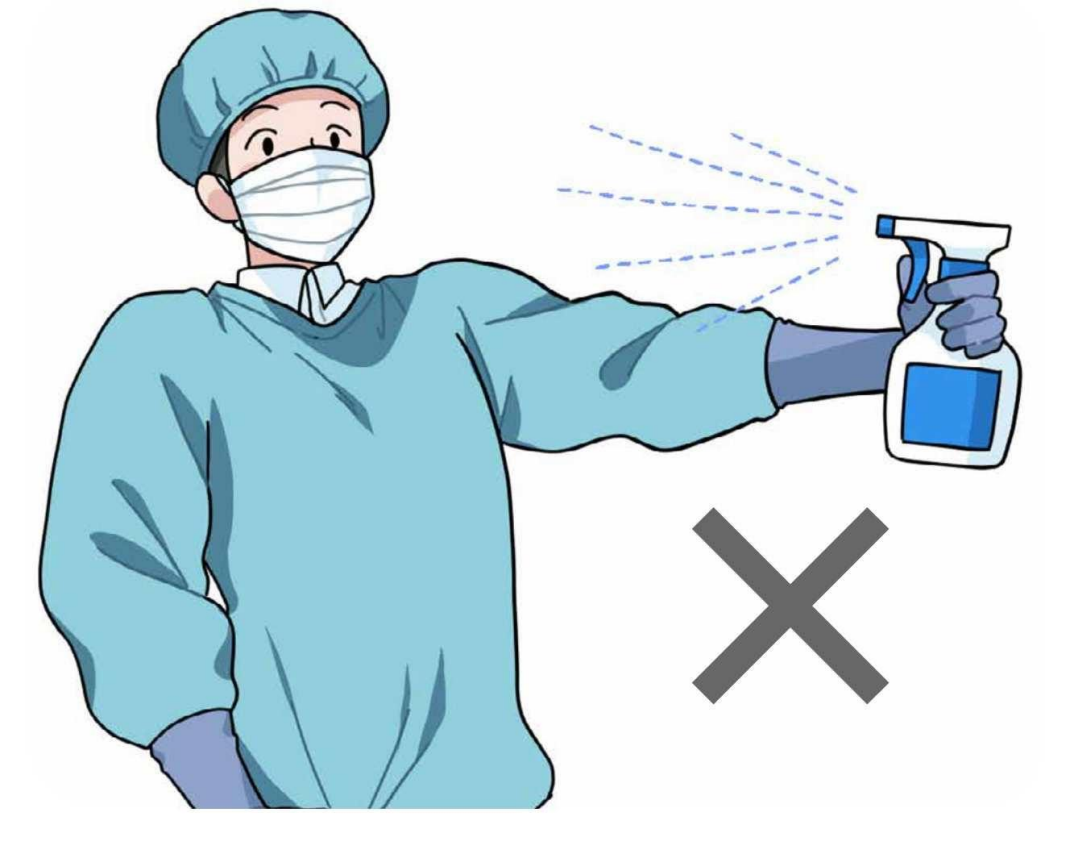
✕ 間違った事例

PPEや白衣に、消毒薬を噴霧して消毒し、使い回している。

○ 正しい事例

PPEは使用の都度、新しいものに交換し、白衣は汚染したら洗濯している。

PPE(個人防護具)や白衣は消毒薬で消毒しません



解説

PPEや白衣などの消毒薬の噴霧は、感染対策上の有効性はありません。消毒薬を吸入することによる健康被害の可能性もあります。

事務室などのエリアではPPE(個人防護具)を着用しません

✕ 間違った事例

事務室などのエリアで常時、手袋やガウンを着用したまま作業している。

○ 正しい事例

事務室などのエリアでは、サージカルマスク以外の個人防護具を着用しない。

事務室などのエリアではPPE(個人防護具)を着用しません

解説

個人防護具は一行為ごとの交換を行います。二重に着用しても外す場合に内側が汚染される可能性があります。事務室などのエリアでは、環境の汚染による間接的な接触感染のリスクのため、医療用マスクのみ着用し、手指衛生を励行しましょう。

PPE(個人防護具)を着脱する環境を整備しましょう

✕ 間違った事例

PPEを着脱する環境が
整備されていない。

○ 正しい事例

PPEの着衣場所、脱衣場所に必要な
ものが設置されている。

PPE(個人防護具)を着脱する環境を整備しましょう

解説

PPEの着衣場所、脱衣場所に必要なものが不足していると、着脱時に感染リスクが高まります。例えば、PPEを脱ぐ場所に感染性廃棄物用ゴミ箱が用意されていないと、汚染されたPPEを廃棄するため、施設内を移動することになります。

PPE(個人防護具)を着脱する環境を整備しましょう

解説

PPEを着る場所はグリーンゾーンに設置し、PPE本体のほか手指消毒薬、一般廃棄物用ゴミ箱、着用手順のポスター、姿見鏡が必要です。また、脱ぐ場所はレッドゾーンの出入り口付近(またはイエローゾーン)に設置し、感染性廃棄物用ゴミ箱（足踏み式）と手指消毒薬、脱衣手順のポスターが必要です。これらは着衣場所・脱衣場所ごとに設置しましょう。慣れていない場合は、他の職員（補助者）に手順を確認してもらいながら着脱しましょう。

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 管理体制

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

東京医療保健大学大学院
菅原 えりさ 先生

東京都

感染対策における管理体制

- 感染対策を成功させるには、施設内の様々な職種がその意図を理解して同じ行動をとることが重要で、それを実現するには全体をまとめる管理体制が鍵を握る。
- 施設内感染対策の基本の一つは、病原菌やウイルスを「持ち込まない」ことで、持ち込むリスクの高い職員を含む外部からの来訪者の健康管理は、管理体制において重要な対応の一つである。
- 職員は自身の体調が不良な場合は、出勤しないか途中で職場を離れることを徹底する必要があり、これらのルール作りとその遵守を見守るのが「管理体制」である。
- 新型コロナウイルス感染症対応で学んだ「管理体制」を今後も生かしたい。

職員の健康観察記録は管理者が管理します

✕ 間違った事例

職員の健康観察記録を自己記載のみとしていた。また、出勤日の状況のみを記載し、休みの日の健康観察を行っていなかった。

○ 正しい事例

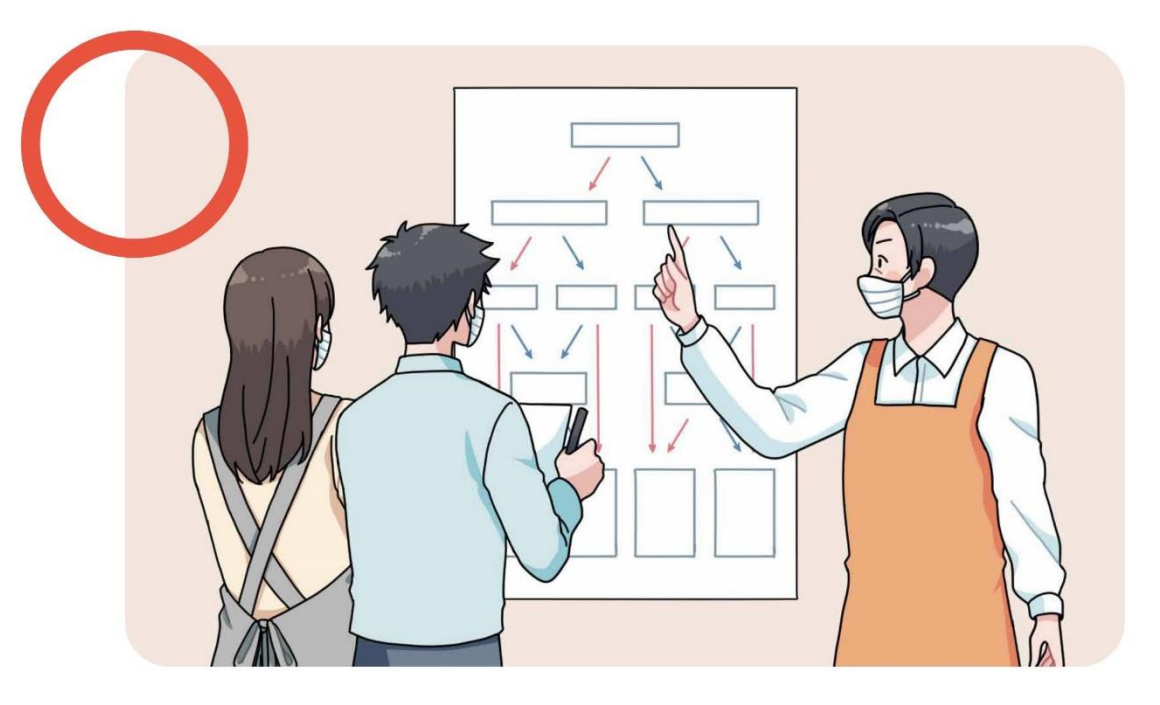
職員の健康観察結果をチェックする担当者を決め、担当者は対応を要する状況かどうかを速やかに判断するようにする。
勤務前、勤務中、休日ともに体調不良を感じたなら、すぐに担当者に報告する必要がある。

解説！　職員の健康観察記録は管理者が管理します

健康観察は、個人に任せるのではなく、管理者が明確に管理する仕組みを作り徹底させることが重要。

- 平時から「報告・連絡・相談」体制を徹底していることが重要。
- 危機管理の基本は、風通しのよい組織体制であること。

感染兆候のある利用者の対応方法を明確にします



✕ 間違った事例

新型コロナウイルス感染症の対応は決まっているが、それ以外の感染症の対応方法が明確になっていない。

○正しい事例

ルール

発熱、呼吸器症状、下痢、おう吐などの感染症を疑う入所者が発生した際の対応を明文化し、誰でも同じように対応できるようフローチャートなどを作成する。

解説！　感染兆候のある利用者の対応方法を明確にしよう

ルール

- 発熱、呼吸器症状、下痢、おう吐のような症状は、多くの人に伝播する恐れのある感染症の場合が多い。
- よって、有症状者を発見したら、決められたルートに則り速やかに報告することが必要。
- その初動体制をあらかじめ決めておくのが「管理体制」の重要なポイント

- 感染症は新型コロナウイルス感染症だけではない。
- 感染疑い入所者が発生した場合の対応を明文化する場合、公的機関のガイドラインを参考にしたり、必要に応じて専門家の支援を受けることなどが理想的。
- 入所者だけでなく、感染が疑わしい職員が発生した場合についても同様。

まとめ

- 感染対策を成功させるには、施設内の様々な職種がその意図を理解して同じ行動をとることが重要で、それを実現するには全体をまとめる管理体制が鍵を握る。
- 感染対策を担う担当者を決めて、施設内で決めたルールが実行されているか見守っていく体制を目指す。
- 施設長はその体制の維持と継続そして感染対策担当者の支援を行うことが重要。
- 新型コロナウイルス感染症対応で学んだ「管理体制」を今後も生かしたい。

高齢者施設・障害者施設の
感染対策事例集

講習動画 ゾーニング

東京iCDC専門家ボード
感染制御チーム

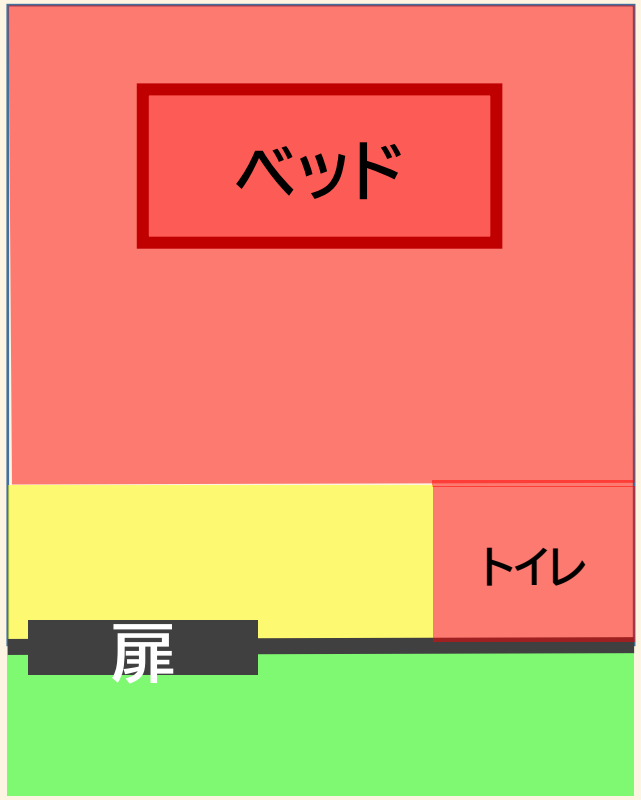
東京医療保健大学大学院
菅原 えりさ 先生

東京都

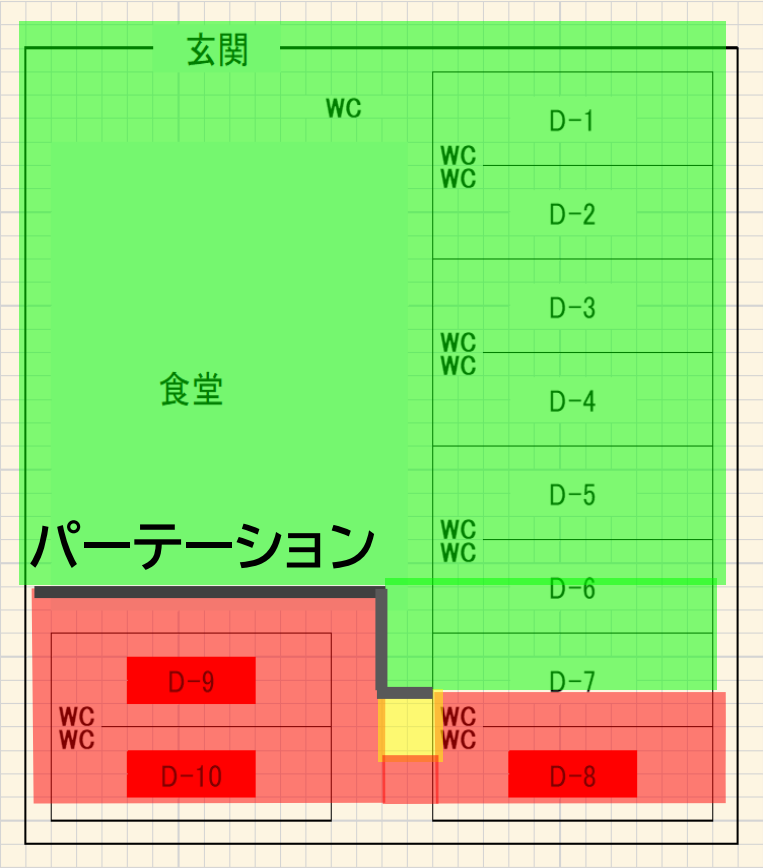
ゾーニングの考え方

ゾーニング：病原菌やウイルスの存在するエリアとそうでないエリアを分けること。
明確に分けることで不用意な立ち入りを制限する。

居室でのゾーニング



区域隔離のゾーニング



ウイルスが存在

ウイルスが存在する可能性がある

ウイルスが存在しない

ゾーニングをする際は、区域を明確に分けます

PPE着用職員とそうでない職員が接触・・

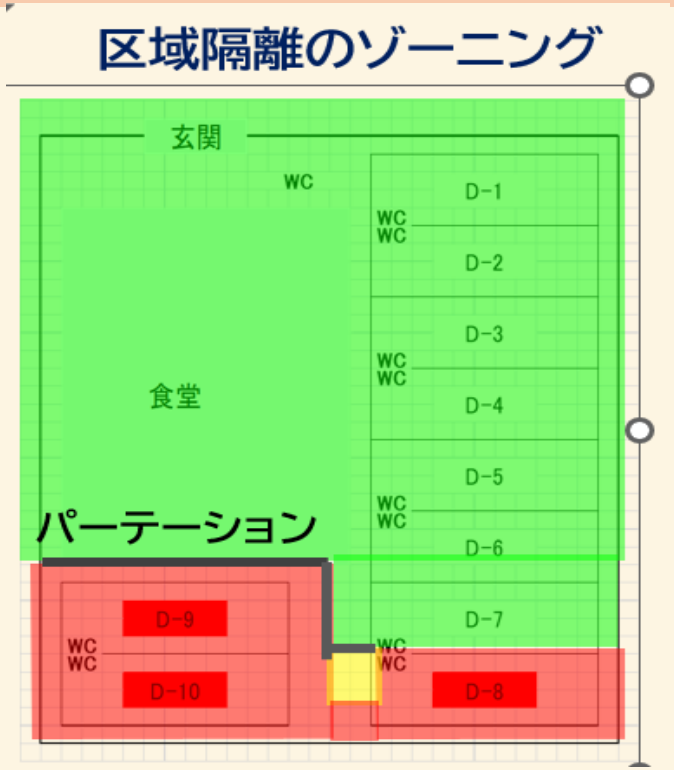
✕ 間違った事例

フロア全部をレッドゾーンとし、ステーションでもPPE(個人防護具)を着用している。
また、同じエリアでPPEを着用している職員もいれば、着用していない職員もいる。

○ 正しい事例

ゾーニングは感染者がいるレッドゾーンと感染者がいないグリーンゾーンを明確に区別することが必要。

解説！　ゾーニングをする際は、区域を明確に分けます



グリーンゾーン：入所者が立ち入らないスタッフルームなど

レッドゾーン　：可能な範囲で狭く設定

- スタッフの意識の切替えがしやすい（リスクを伴うケアに対する）
- PPE着脱手順を含む業務も明確となる
- そのことが職員の業務負担軽減につながり、職員の安全を保つことになる。

ゾーニングをする際は、区域を明確に分けます

補足事例

グリーンゾーンには、使用済のPPEを持ち込んではいけません。

PPEは、脱衣後その場で廃棄物ボックスに入れます。

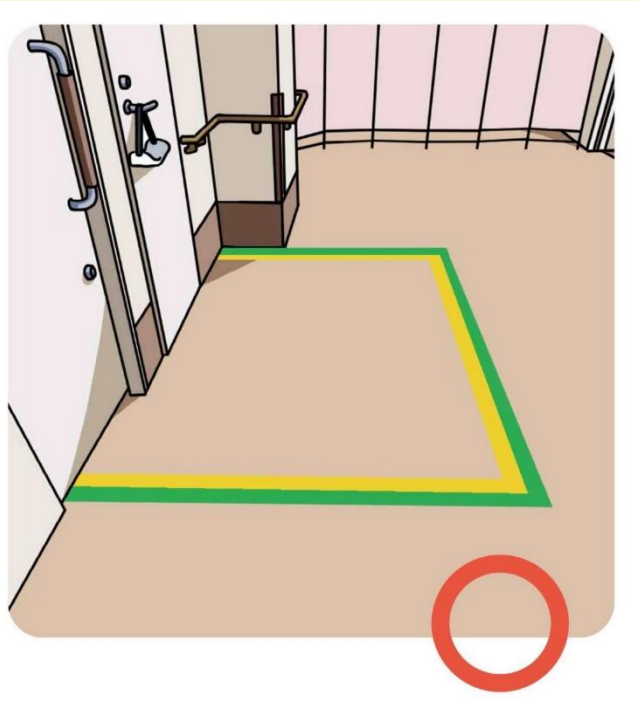
↓

PPEはイエローゾーンで脱ぎます。

ゾーニングの仕切り方に注意しましょう

✕ 間違った事例

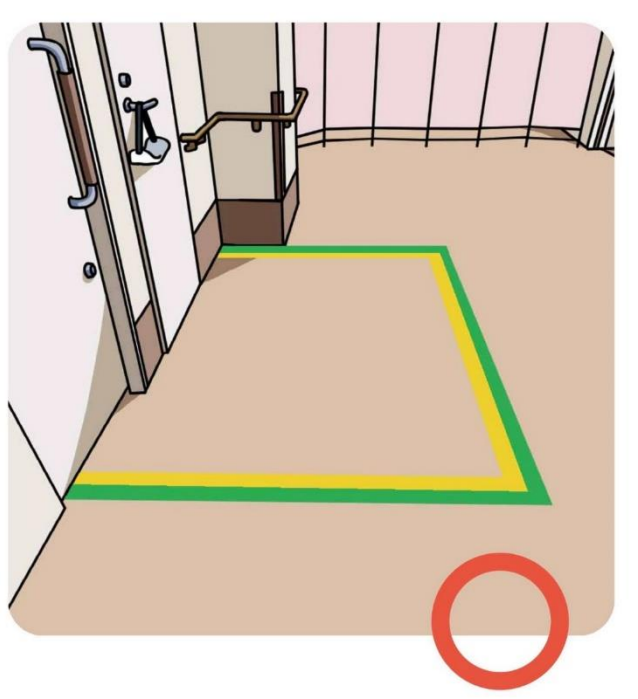
ゾーニングの境界をビニールカーテンで区切っているため、カーテンを持ち上げて出入している。



○ 正しい事例

養生テープのラインや、消毒可能なパーテーションでゾーニングを行う。

解説！　ゾーニングの仕切り方に注意しましょう



- ゾーニングエリアに不用意に立ち入らないよう、分かりやすく表示すること。
- ただし、広いエリア仕切る場合、消毒可能な衝立を選ぶ。
- また、仕切りは床にラインを引くことでも可能。
- さらに、部屋ごとにゾーニングする場合は、ドアに「レッドゾーン」や「隔離中」などを明確に示す。

感染症が疑われる利用者の洗面台の利用には注意しましょう

✕ 間違った事例

感染症が疑われる利用者（有症状者）とそうでない利用者が、洗面所を同時に並んで利用している。

○ 正しい事例

感染症が疑われる利用者（有症状者）は、他の利用者と一緒に洗面台を使わないようにします。

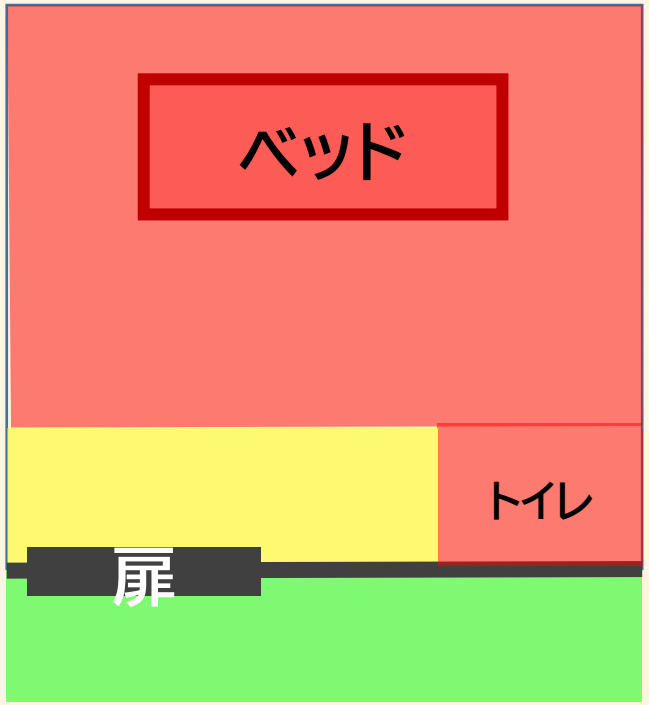
解説！感染症が疑われる利用者の洗面台の利用には注意しましょう

- 有症状者の自室に洗面台がある場合はそれを使用し、共用の洗面台は使用しない。
- 共用洗面台しかない場合は、先に無症状者が洗面所を使用し、その後有症状者が使用する(時間的隔離)
- 有症状者の洗面台使用後は、消毒したうえで、通常の使用に戻す。

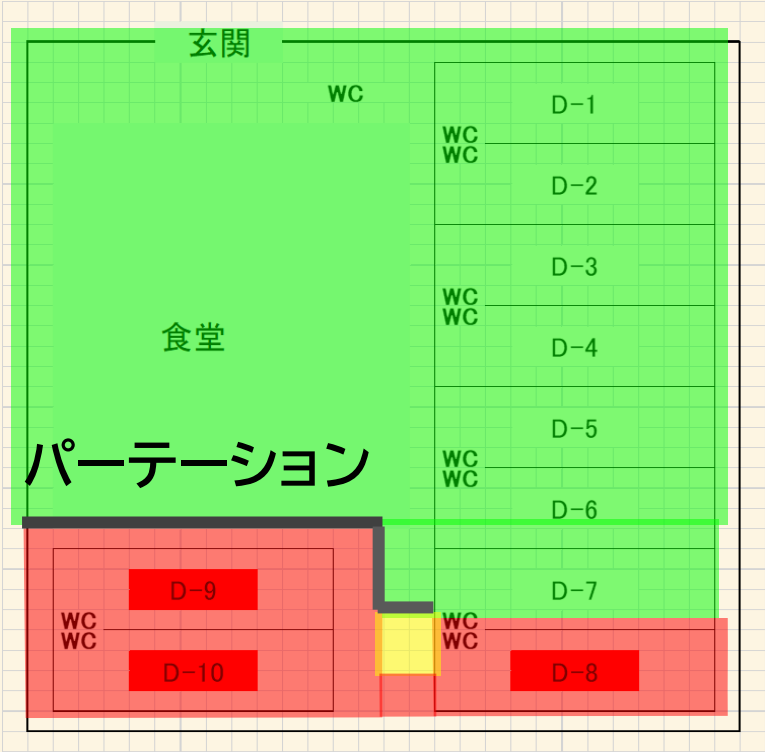
まとめ

● 平時より、自施設のゾーニングのあり方をシミュレートすることが重要

居室でのゾーニング



区域隔離のゾーニング



ウイルスが存在

ウイルスが存在する可能性がある

ウイルスが存在しない